

地域日本語教育に関する 調査結果報告書

名古屋市

<目次>

1	外国人住民の状況	1
2	外国人住民の日本語学習に関する意向	9
	（1）調査の概要	9
	（2）調査結果	9
3	地域日本語教室の状況	30
	（1）調査の概要	31
	（2）調査結果の概要	31
4	地域日本語教室等ヒアリング調査結果	37
	（1）ヒアリング調査対象	37
	（2）ヒアリング調査まとめ	37
	（3）地域日本語教室意見交換会 意見まとめ	53

1 外国人住民の状況（外国人市民統計より）

- ・名古屋市の外国人住民人口は、2018 年 12 月末日現在 83,083 人で、2014 年からの推移をみても毎年増加（図表 1 参照）
- ・国籍別にみると、中国 23,386 人（28.1%）と最も多く、韓国、フィリピン、ベトナム、ネパールが続いている。特に、ベトナム、ネパールの増加が顕著（図表 2、3 参照）
- ・在留資格別には、永住者が 23,786 人（28.6%）と最も多く、留学、特別永住者、家族滞在の順に多い（図表 4 参照）
- ・居住資格が 41.2%と最も多く、非就労資格 26.3%、特別永住者 15.4%、就労資格（技能実習を除く）11.2%、技能実習 5.7%（図表 5 参照）

<在留資格の区分>

【居住資格】

永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者

【非就労資格】

文化活動、短期滞在、留学、研修、家族滞在、特定活動

【就労資格】

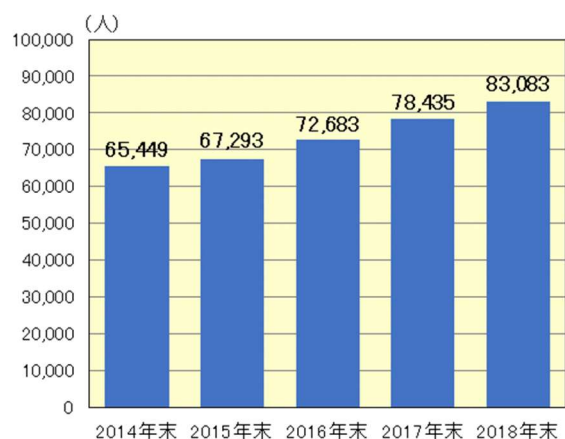
外交、公用、教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興業、技能

【技能実習】

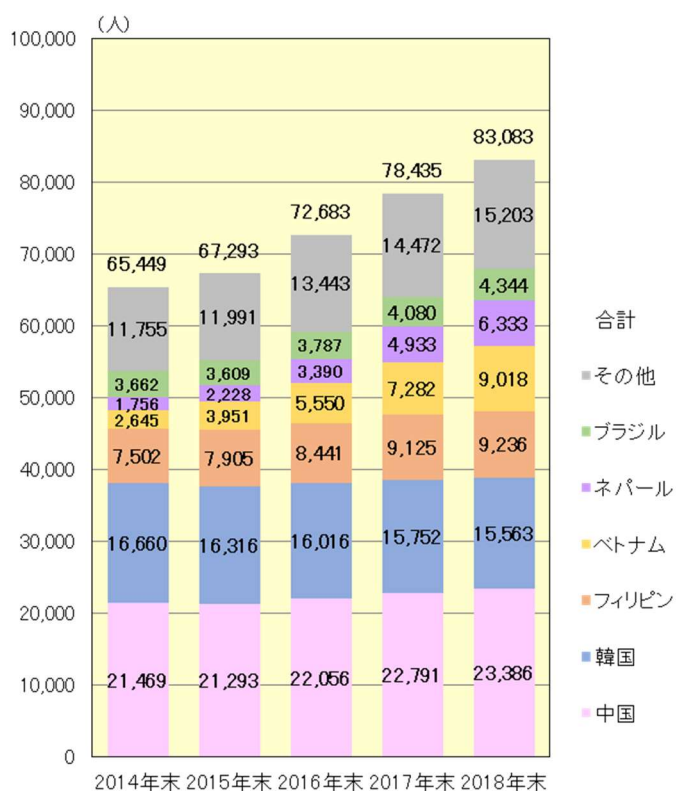
技能実習 1 号イ・ロ、2 号イ・ロ、3 号イ・ロ

- ・性別・5 歳階級年齢別では、20 歳代の男性が多くなっており、男女とも年齢が上がるにしたがって少ない状況（図表 6、7 参照）
- ・主な国籍別に性別・5 歳階級年齢別人口をみると、中国は 20 歳代、30 歳代の女性が多く、韓国・朝鮮は 40 歳代以上、フィリピンは 30 歳代、40 歳代を中心に女性がかかり多く、ベトナム・ネパールはほとんどが 20 歳代で、男性が多くなっている（図表 8 参照）
- ・在留資格別の性別・5 歳階級年齢別人口をみると、就労資格（技能実習を除く）は 25～39 歳の男性、技能実習は 20 歳代の男性、非就労資格は 20 歳代の男女、居住資格は 35～49 歳の女性が多い（図表 9 参照）
- ・区別の外国人住民人口と比率をみると、中区が最も多く、外国人住民比率は 11.0%と他の区と比べても高い。港区が続いているが、外国人住民比率は 6.0%である。（図表 10 参照）
- ・区別に在留資格別人口をみると、就労資格は中区、技能実習は港区、南区、緑区、中川区、非就労資格は中区、千種区、中村区、昭和区、居住資格は港区、中区、緑区、南区、北区、中川区が多くなっている（図表 11 参照）

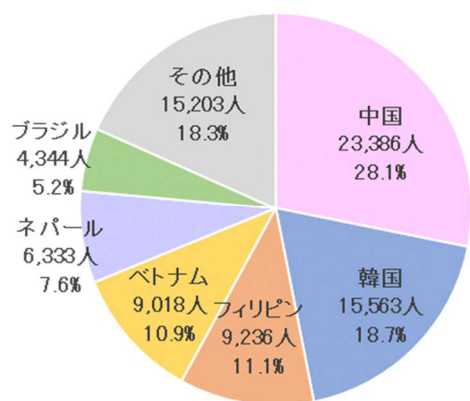
図表 1 外国人住民人口の推移



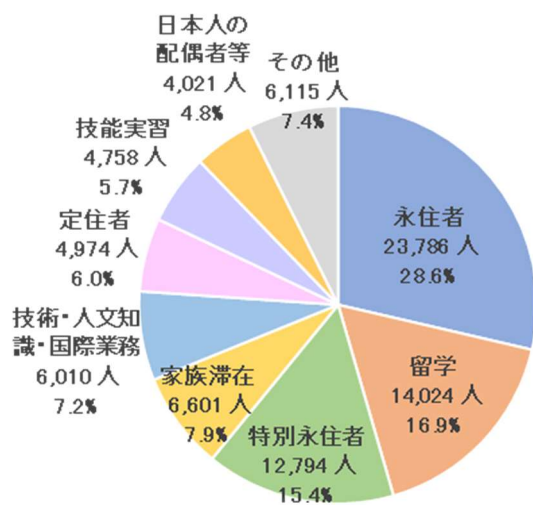
図表 2 主な国籍別外国人住民人口の推移



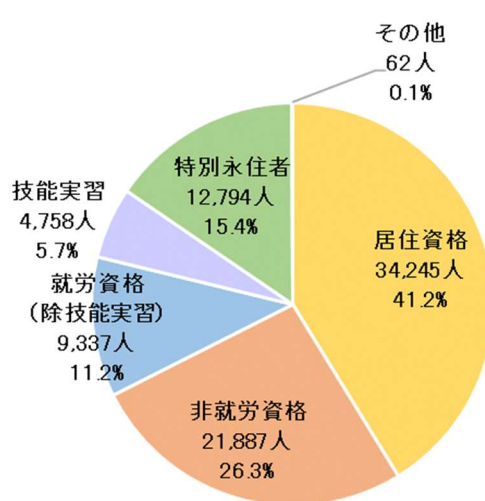
図表 3 主な国籍別外国人住民人口の割合



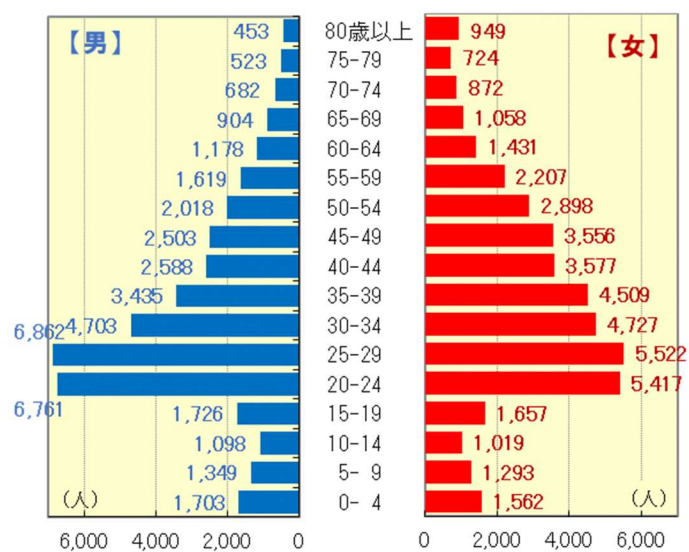
図表 4 在留資格別外国人住民の割合



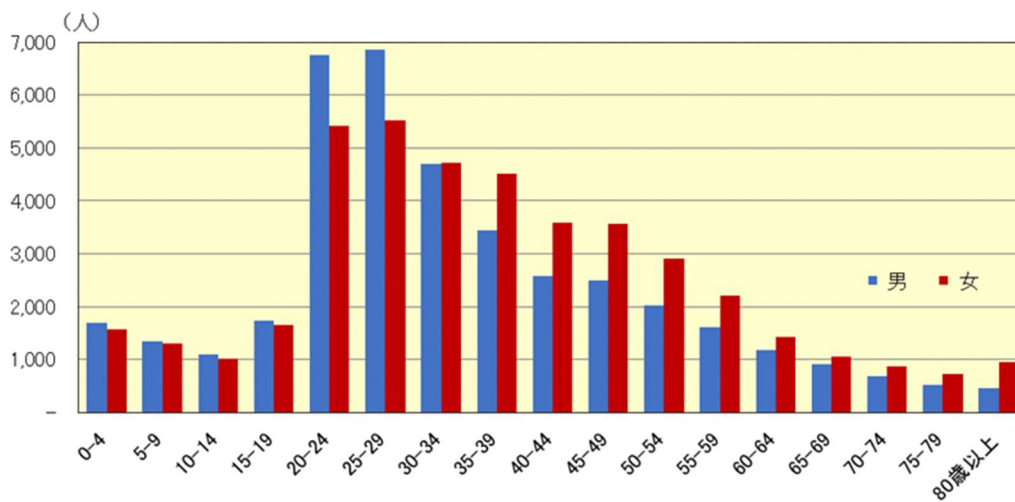
図表 5 在留資格（大分類）別外国人住民の割合



図表 6 外国人住民人口ピラミッド

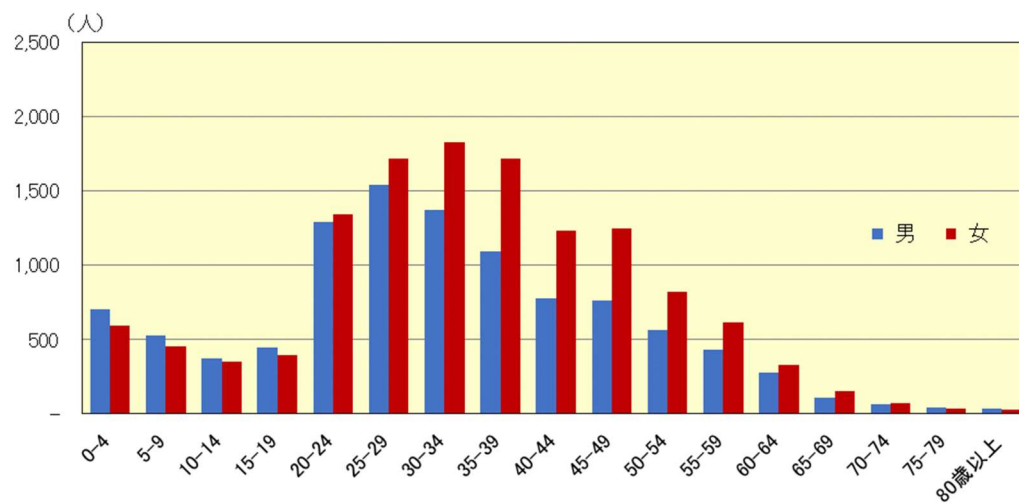


図表 7 性別・年齢別外国人住民人口

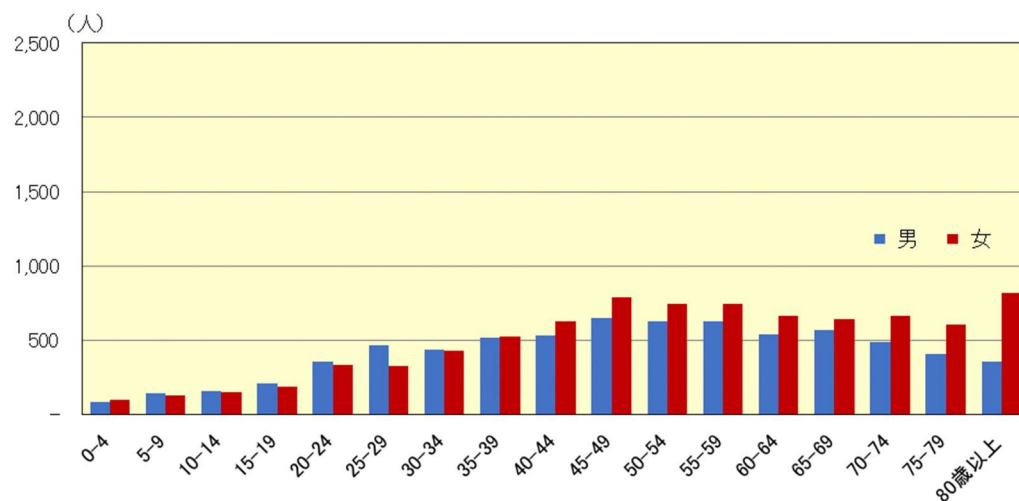


図表 8 主な国籍別・性別・年齢別外国人住民人口

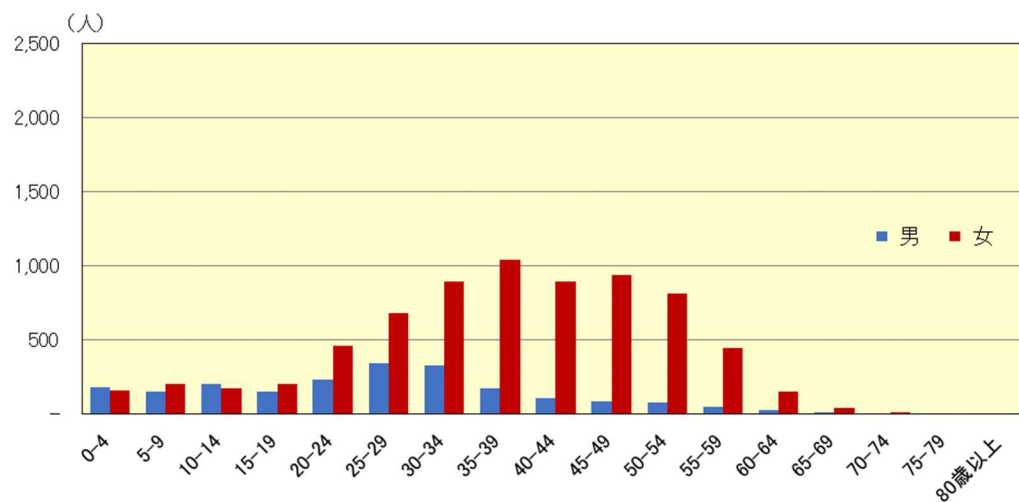
【中国】



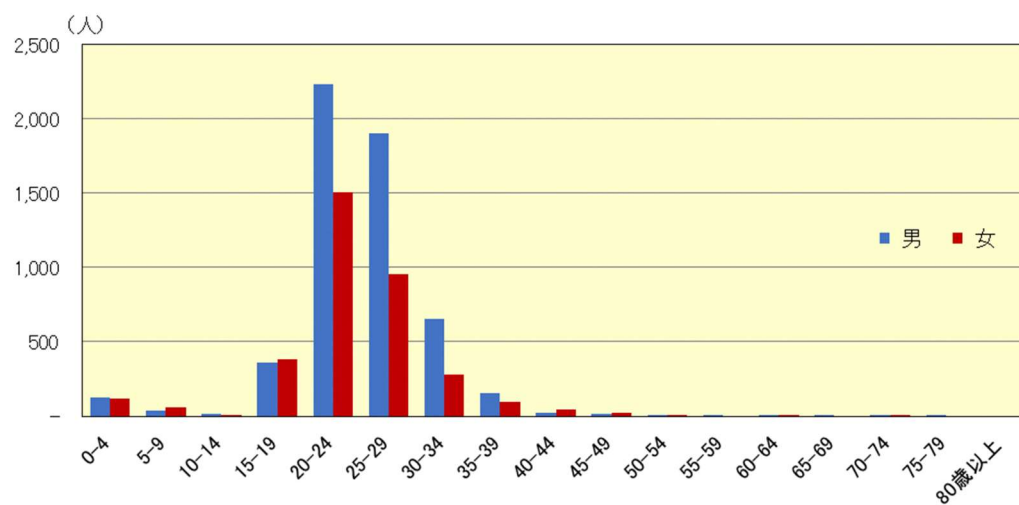
【韓国】



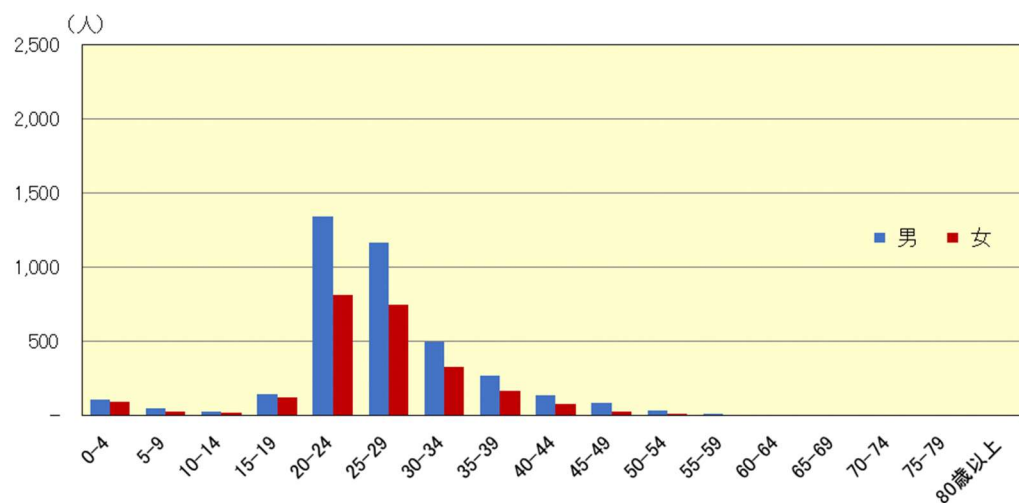
【フィリピン】



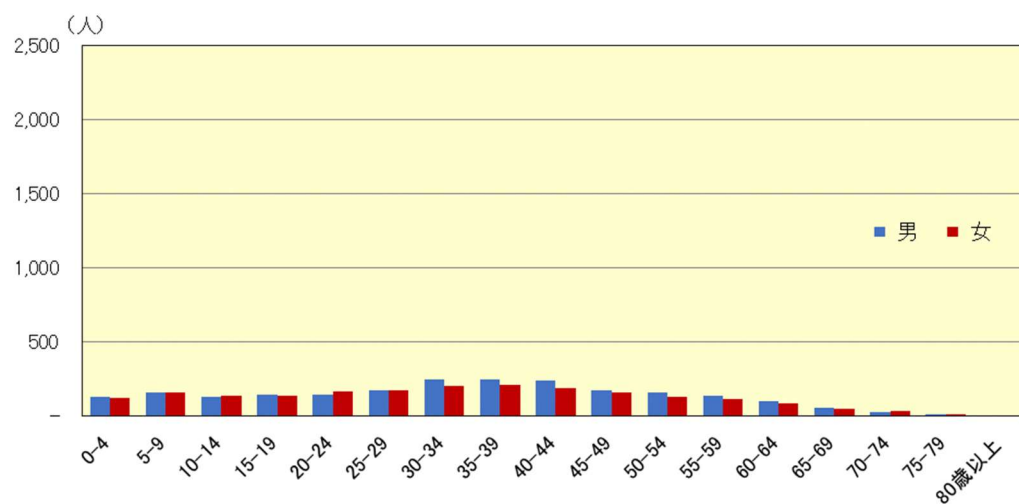
【ベトナム】



【ネパール】

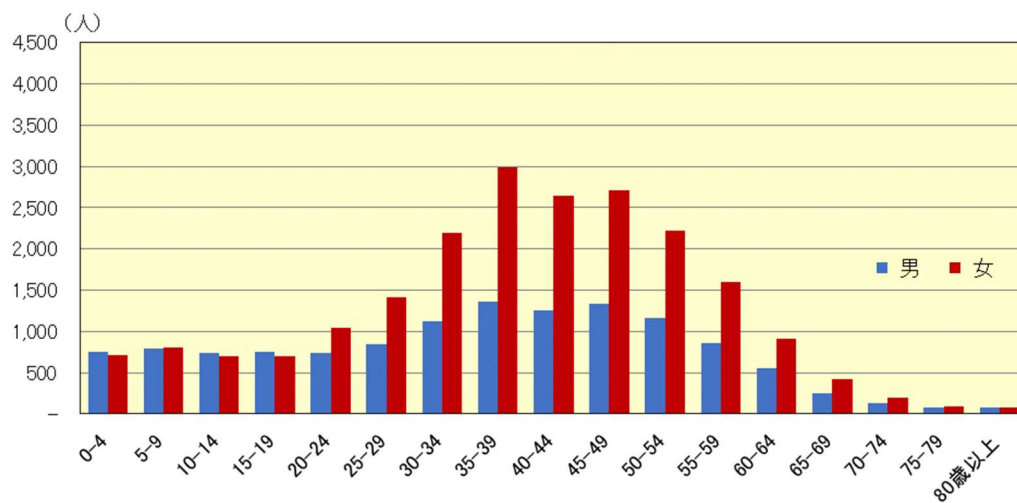


【ブラジル】

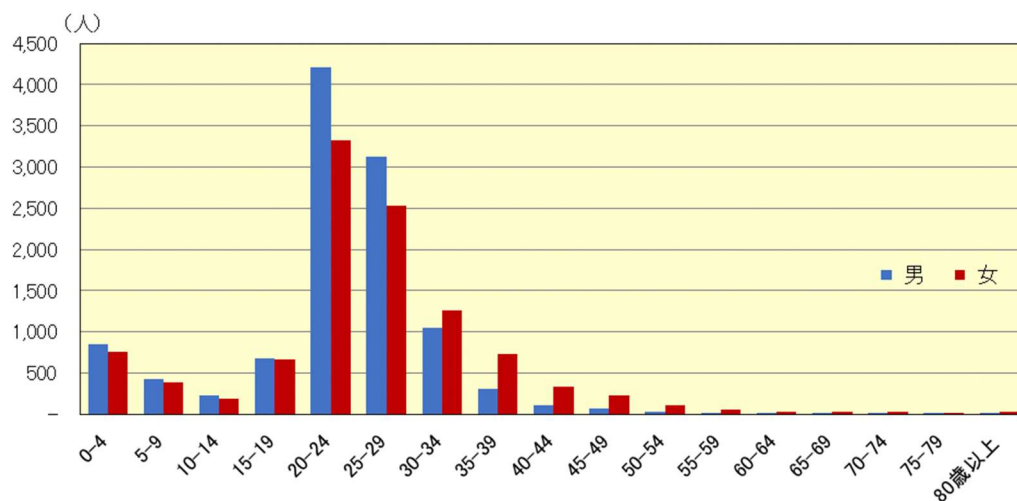


図表 9 在留資格別・性別・年齢別外国人住民人口

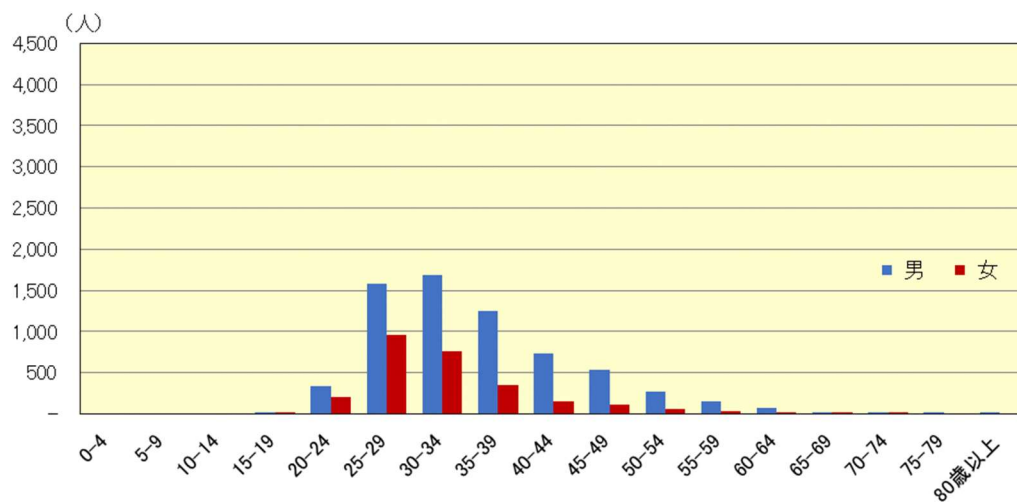
【居住資格】



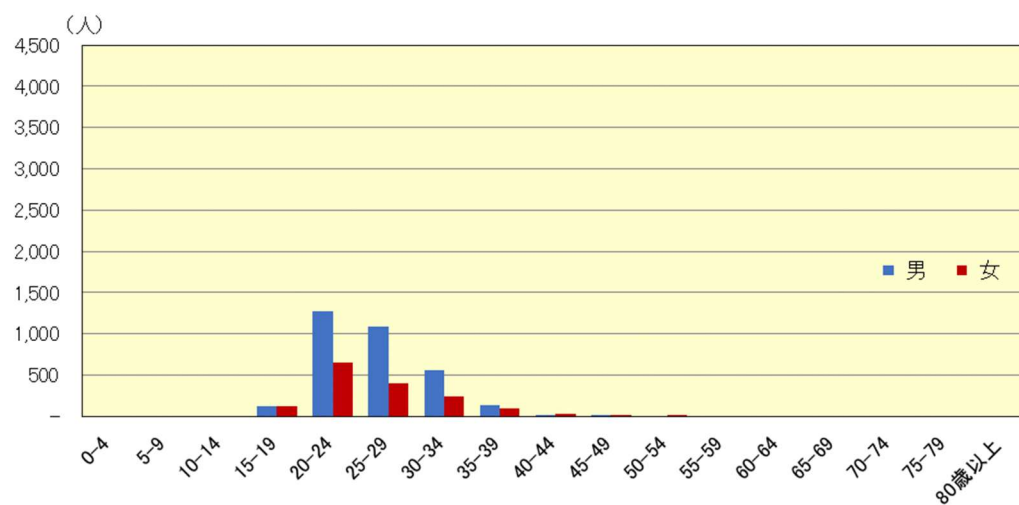
【非就労資格】



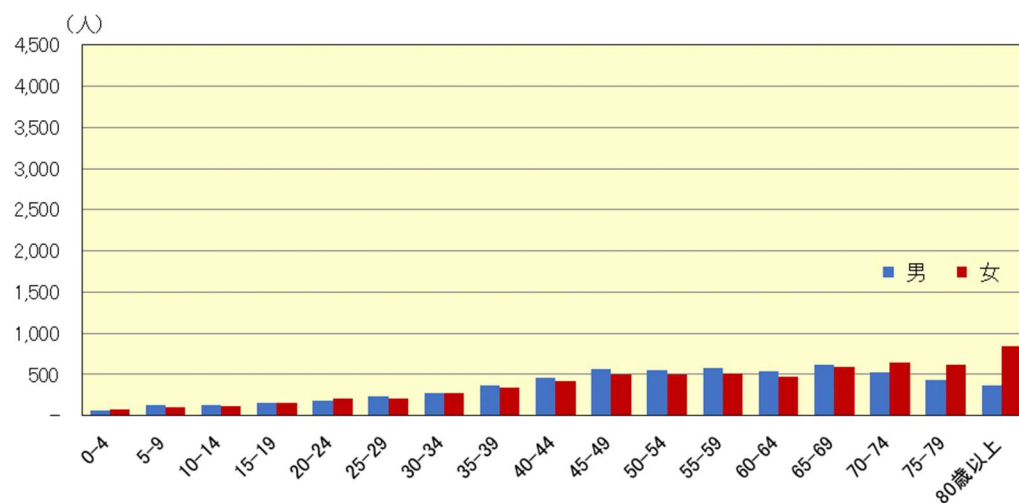
【就労資格（技能実習を除く）】



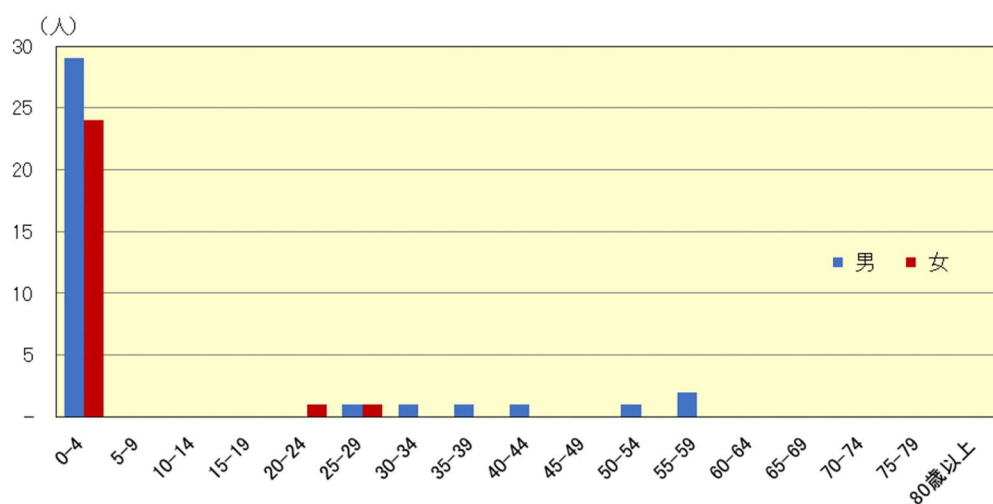
【技能実習】



【特別永住者】



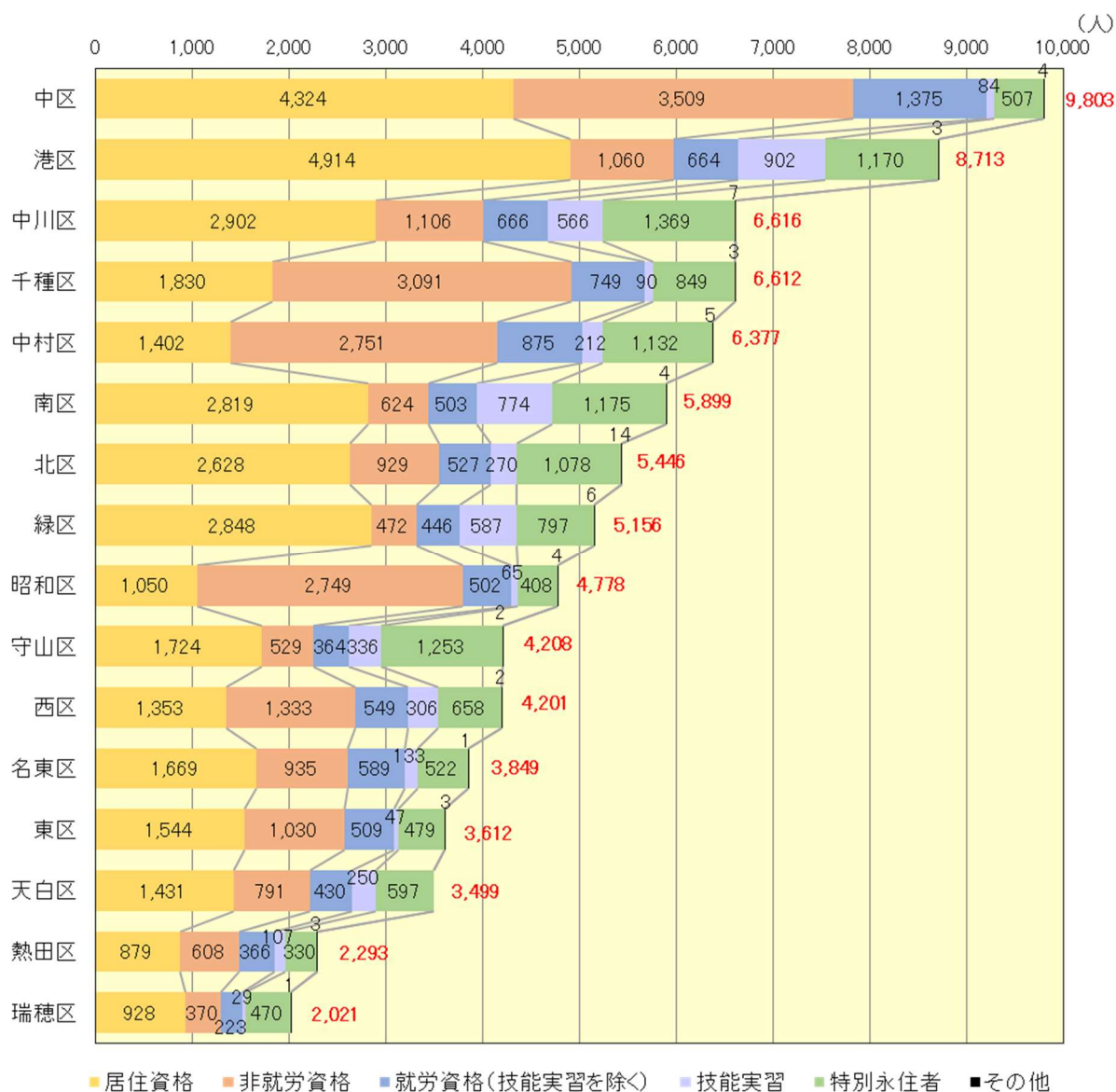
【その他】



図表 10 区別外国人住民人口と割合



図表 11 区別・在留資格別外国人住民人口



2 外国人住民の日本語学習に関する意向（外国人住民アンケート調査結果より）

（1）調査の概要

◆調査の目的

外国人住民が増加する中、日本で快適に生活するために、できるだけ日本語を学習してもらえよう、外国人住民の日本語学習に関する実態と意向を把握するアンケート調査を実施した。

◆調査方法

郵送配布・郵送回収

◆調査期間

令和元（2019）年 11 月 13 日（水）～11 月 29 日（金）

◆回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
3,000 票	780 票	26.0%

◆調査項目

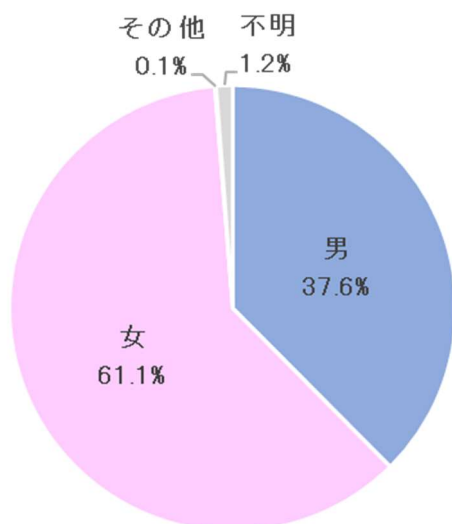
- 回答者自身について
- 日本語の能力について
- ふだんの日本語の使用状況
- 日本語の学習について

（2）調査結果

回答者自身について

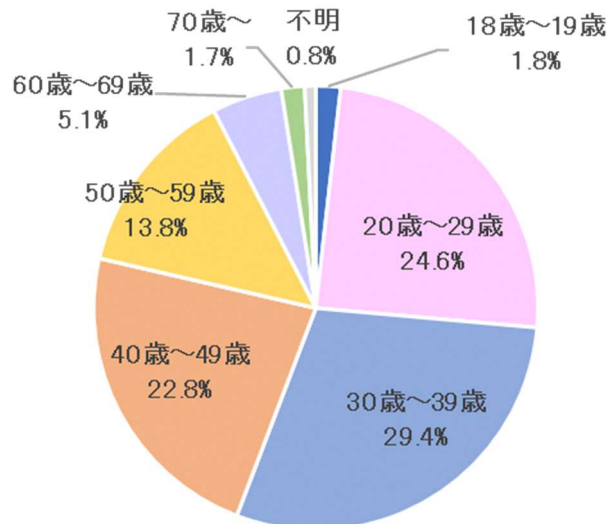
- ・回答者の性別は、女性が 61.1%、男性が 37.6%（図表 12 参照）
- ・年齢は、30 歳代が 29.4%と最も多く、20 歳代、40 歳代が続いている（図表 13 参照）
- ・国籍は、「中国・台湾」が 36.8%、フィリピン、ベトナム、ブラジル、韓国・朝鮮が 10%程度ずつ（図表 14 参照）
- ・在留資格は、「永住者」が 39.5%と最も多く、居住資格が 62.2%、非就労資格が 16.4%、就労資格、技能実習が各 10%程度（図表 15 参照）
- ・居住している区は、中区が最も多く、千種区、港区が続いている（図表 16 参照）
- ・仕事をしている人が 71.9%、求職中が 11.2%（図表 17 参照）
- ・日本人と一緒に暮らしている人は 36.7%（図表 18 参照）
- ・日本での居住年数は 10 年以上が 48.3%。1 年未満は 8.8%（図表 19 参照）
- ・今後の居留意向は、58.1%がずっと住み続けると回答。未定は 19.0%（図表 20 参照）

図表 12 回答者の性別



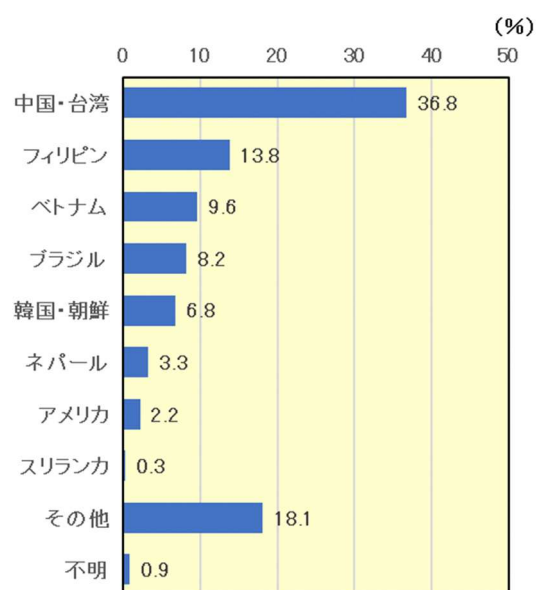
N=780

図表 13 回答者の年齢



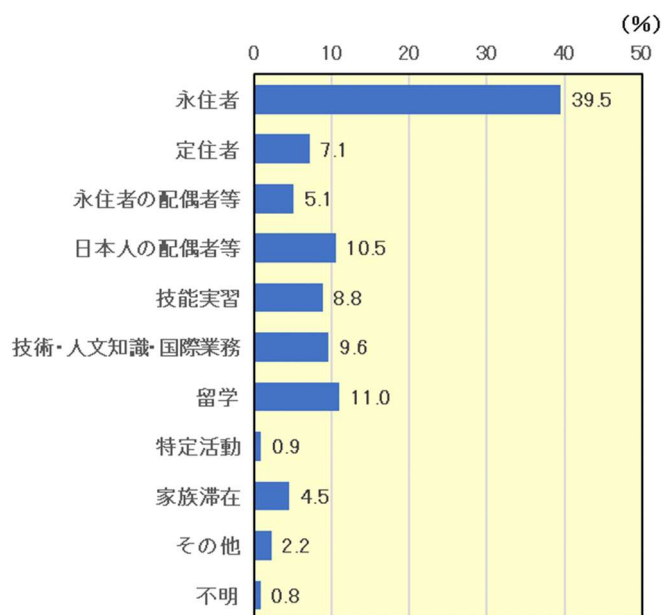
N=780

図表 14 回答者の国籍・地域



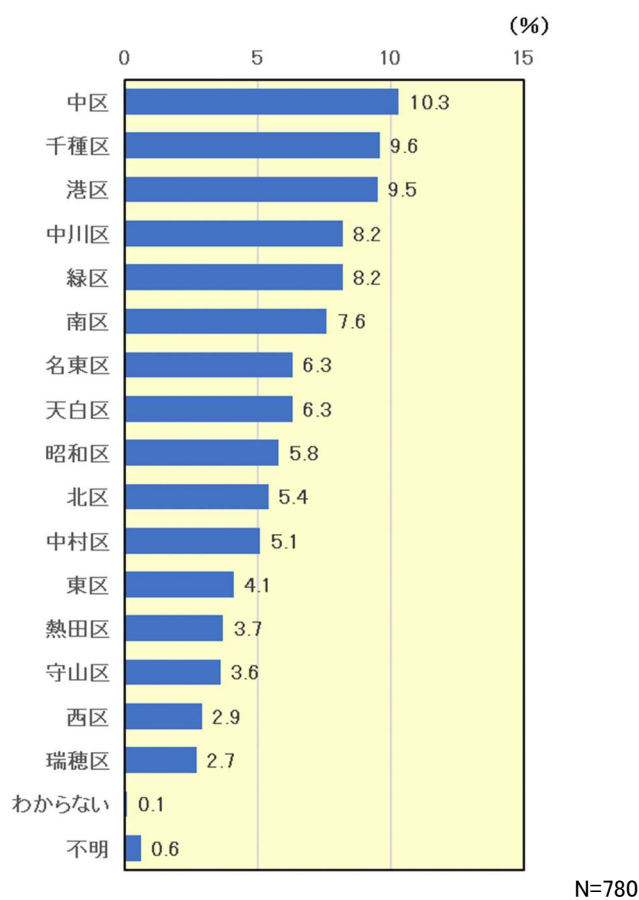
N=780

図表 15 回答者の在留資格

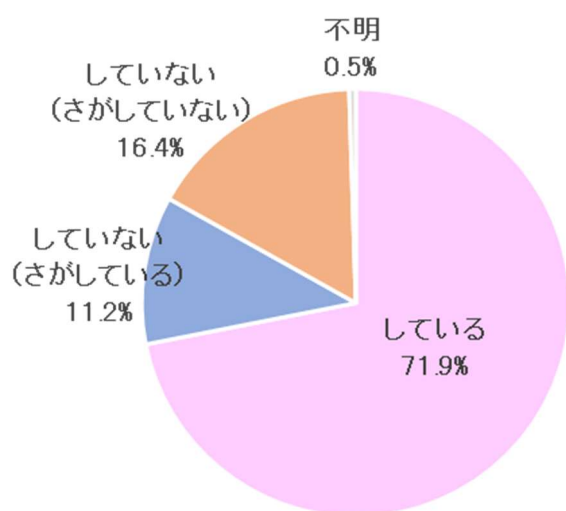


N=780

図表 16 回答者の居住区

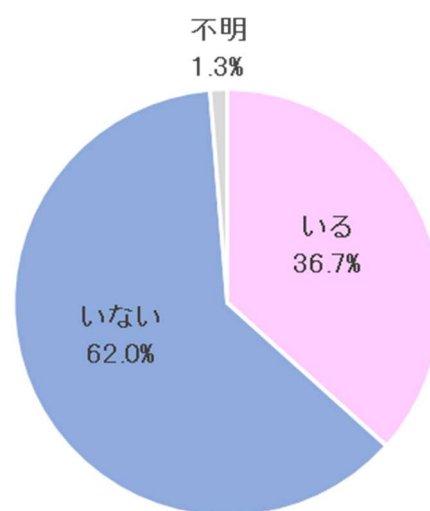


図表 17 仕事の有無



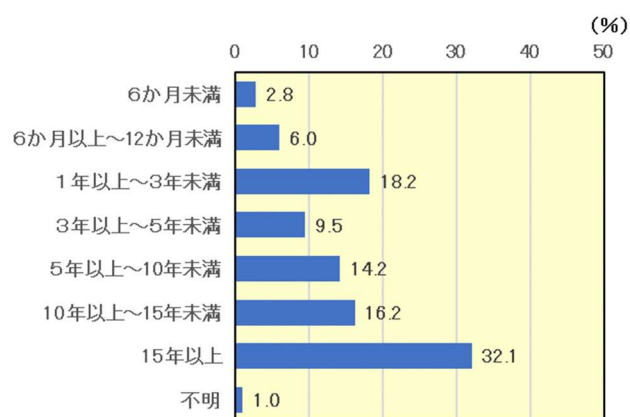
N=780

図表 18 同居の日本人の有無



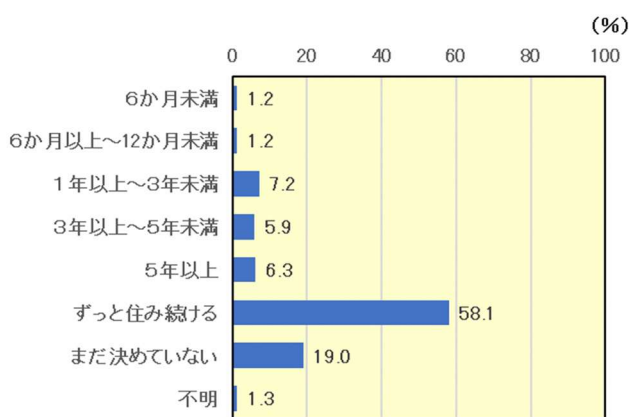
N=780

図表 19 日本での居住年数



N=780

図表 20 日本での今後の居住意向

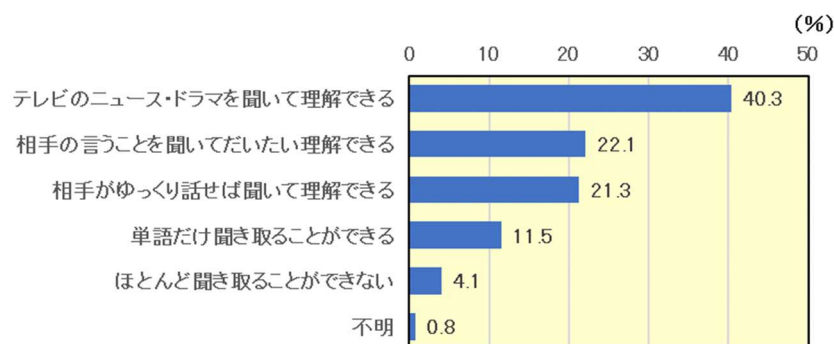


N=780

あなたの日本語の能力について

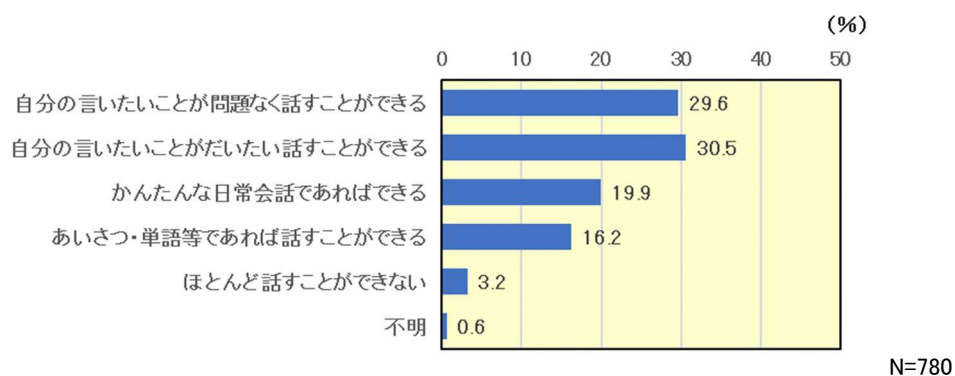
- ・聞くことは、62.4%がだいたい理解できると回答しているが、「ゆっくり話せば理解できる」が 21.3%であり、「単語だけ」が 11.5%、「ほとんどできない」が 4.1%を合わせて 15.6%は聞き取りが難しいと回答している（図表 21 参照）
- ・話すことは、日常会話以上ができる人が 80.0%。「あいさつや単語程度」は 16.2%、「ほとんどできない」が 3.2%であり、合わせて 19.4%は話すことが難しいと回答している（図表 22 参照）
- ・読むことは、欲しい情報がわかる以上のことができる人が 67.8%。「絵のついた簡単な指示がわかる」が 23.1%、「ほとんどできない」が 8.2%であり、合わせて 31.3%は読むことが難しいと回答している（図表 23 参照）
- ・書くことは、用件を伝える簡単なメモを書く以上のことができる人は 66.8%。「名前や住所は書ける」が 22.8%、「ほとんどできない」が 10.3%で、合わせて 33.1%は書くことが難しいと回答している（図表 24 参照）

図表 21 聞くこと

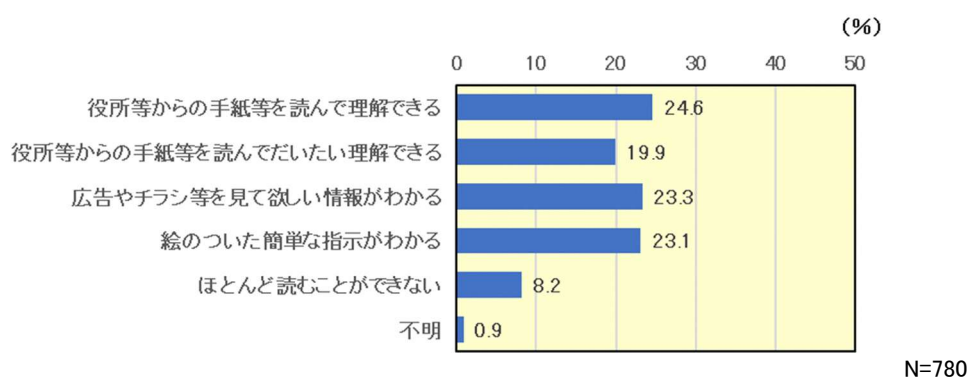


N=780

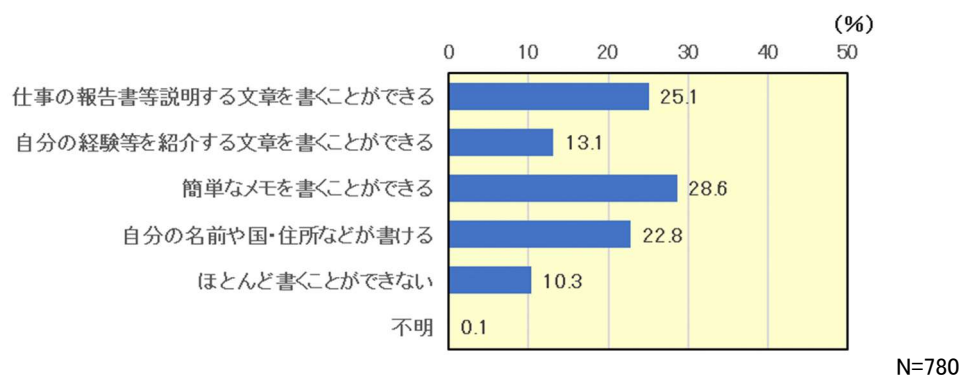
図表 22 話すこと



図表 23 読むこと



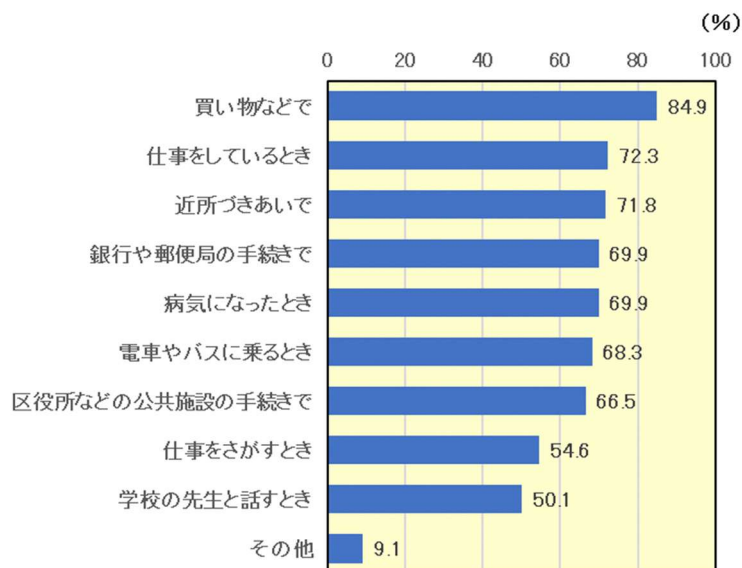
図表 24 書くこと



ふだんの日本語の使用状況について

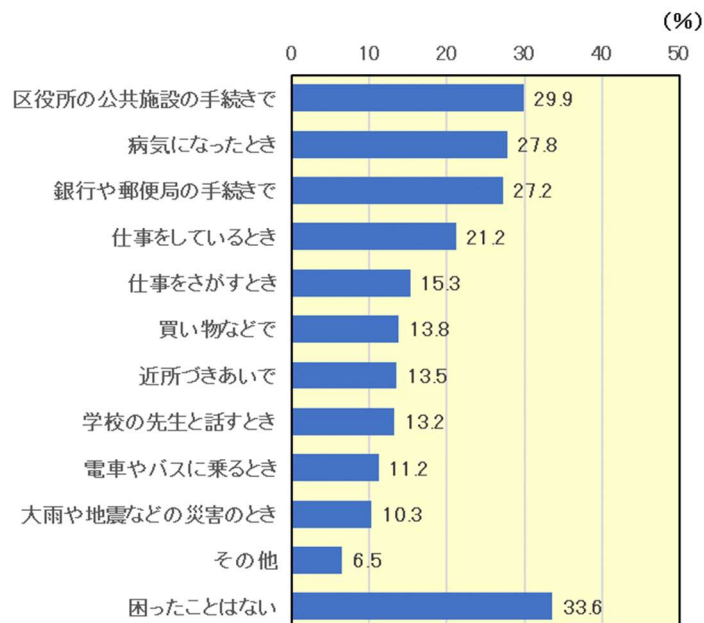
- ・買い物、仕事、近所づきあい等、生活の様々な場面で 60%以上が日本語を使用すると回答している（図表 25 参照）
- ・日本語で困ったことは、公的機関での手続き、病院、仕事が多くなっている（図表 26 参照）

図表 25 日本語を使う場面（複数回答）



N=780

図表 26 1年間で、日本語で困った経験（複数回答）

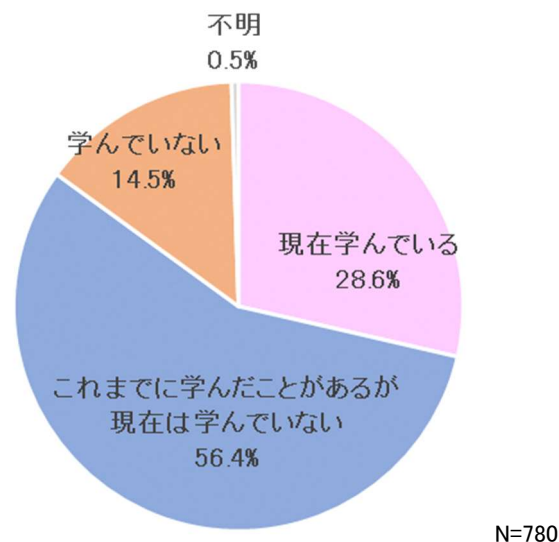


N=780

これまでの日本語の学習について

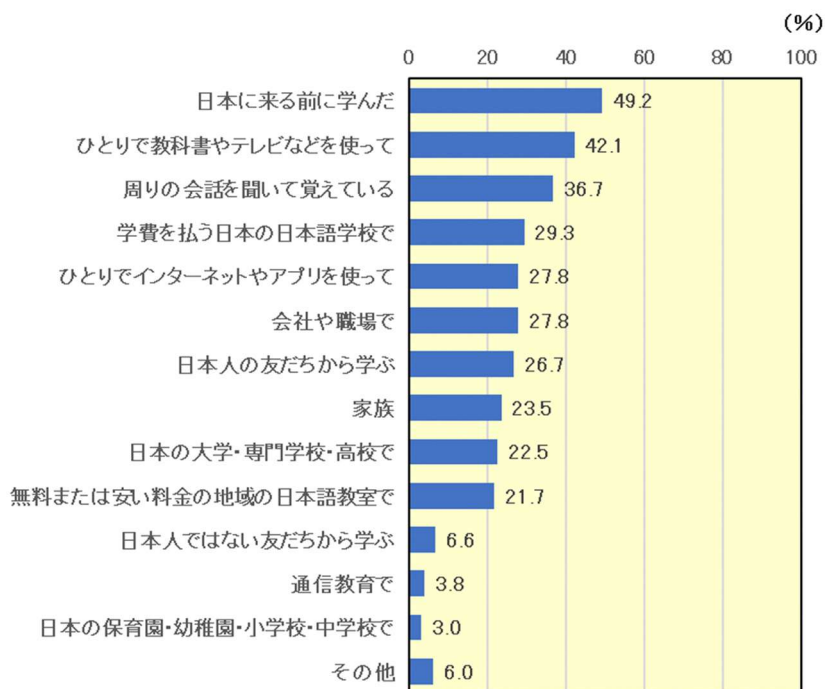
- ・日本語を「現在学んでいる」が 28.6%、「これまでに学んだことがある」が 56.4%。一方、「学んでいない」が 14.5%（図表 27 参照）
- ・日本語を学んだことがある人の方法は、「日本に来る前に」が 49.2%、「学費を払う日本の日本語学校」が 29.3%、「地域の日本語教室」「日本の大学、専門学校等」が 20%程度。それ以外は独学や家族・友人から、あるいはインターネット等（図表 28 参照）
- ・日本語を学ぶ目的は、「生活のため」が 83.4%、そのほかに仕事、日本人との付き合いは 50%超（図表 29 参照）
- ・日本語教室に通った人がその教室を選んだ理由は、「友人の紹介」「都合の良い時間」「住んでいる場所から近い」が多くなっている（図表 30 参照）

図表 27 日本語学習の経験



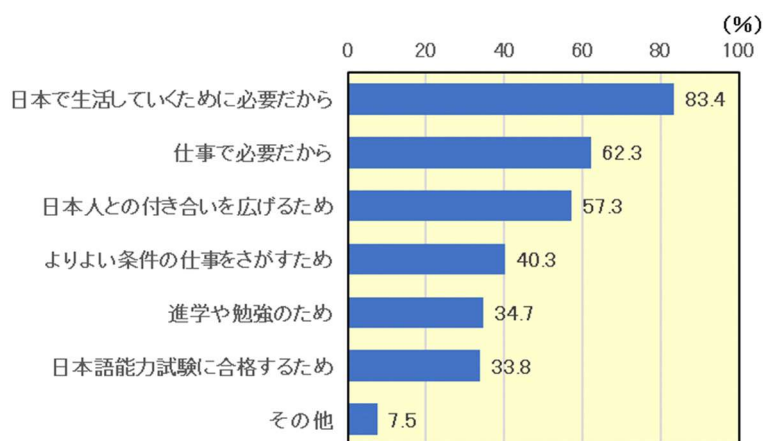
【現在日本語学んでいる、これまでに日本語を学んだことがあるが、現在は学んでいないと回答した人が対象】

図表 28 日本語学習の方法（複数回答）



N=663

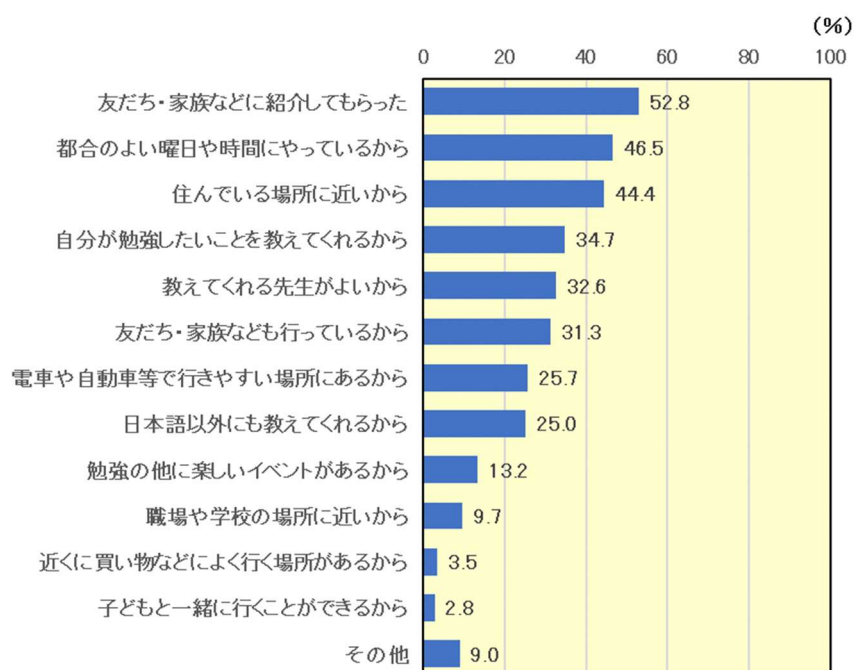
図表 29 日本語学習の目的（複数回答）



N=663

【無料または安い料金の地域の日本語教室で学んだことがあると回答した人が対象】

図表 30 日本語教室を選んだ理由（複数回答）

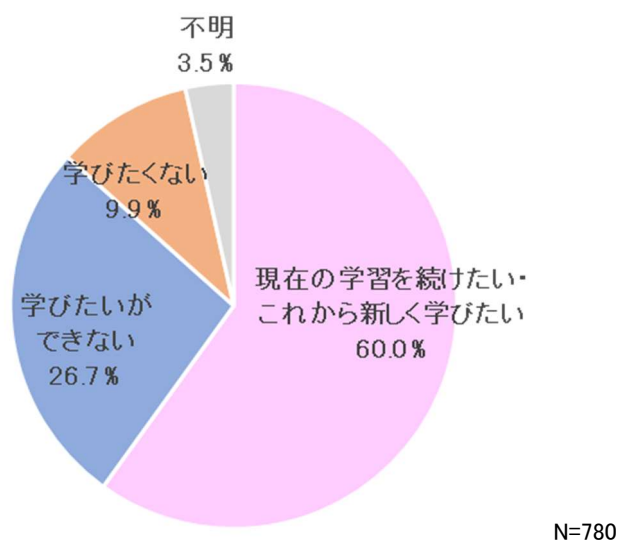


N=144

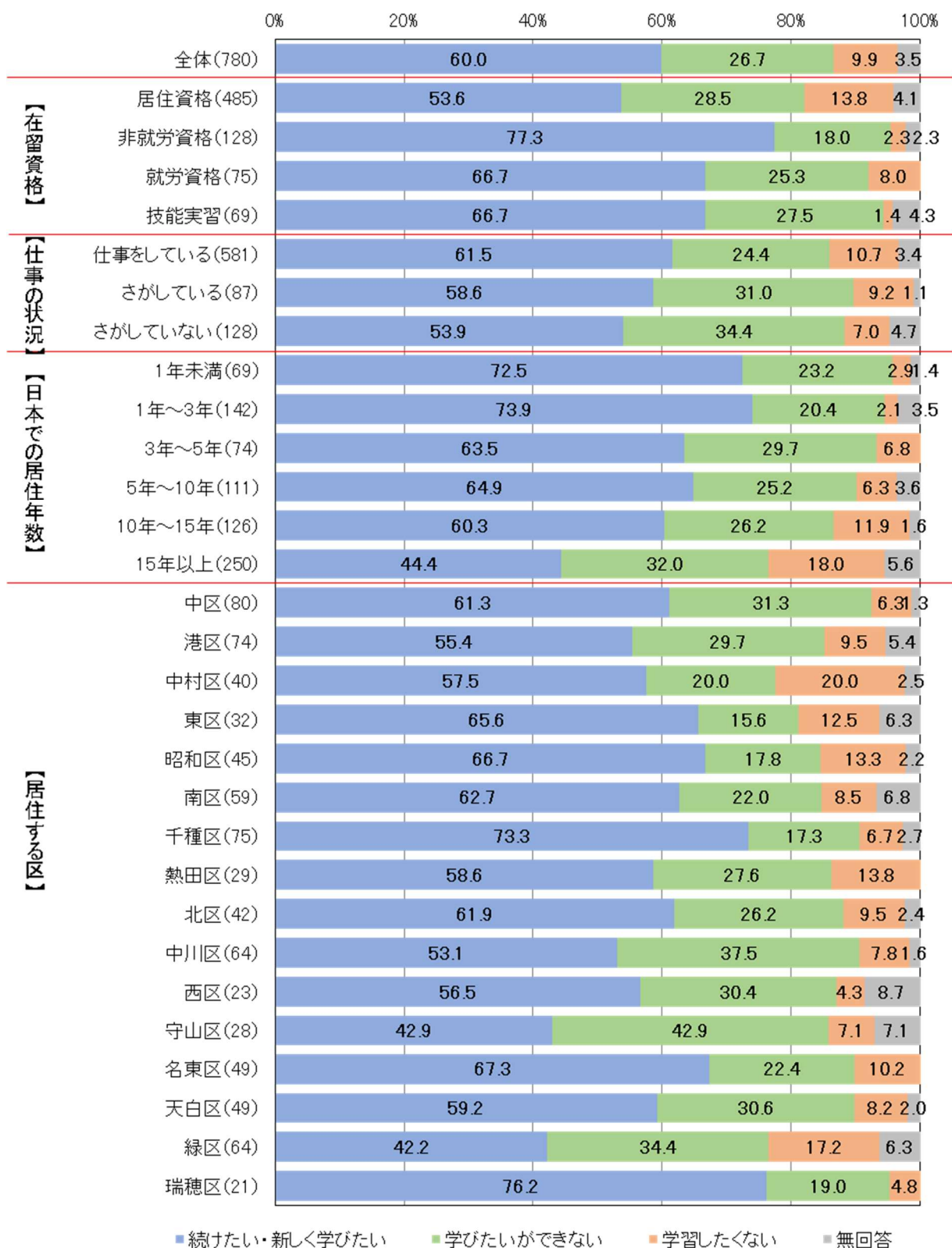
これからの日本語の学習について

- ・今後の日本語学習の意向は、「続けたい、新しく学びたい」が 59.9%。「学びたいができない」が 26.7%（図表 31 参照）
- ・在留資格別では「非就労資格」において「続けたい・新しく学びたい」が多い。
- ・仕事の状況別では、「仕事をしている」において「続けたい・新しく学びたい」が多い。
- ・日本での居住年数別では、3 年未満の概ね短い人で「続けたい・新しく学びたい」が多い。
- ・居住する区別では、「瑞穂区」「千種区」で「続けたい・新しく学びたい」が多く、「守山区」「緑区」「中川区」で「学びたいができない」が多い。（図表 32 参照）

図表 31 今後の日本語学習の意向



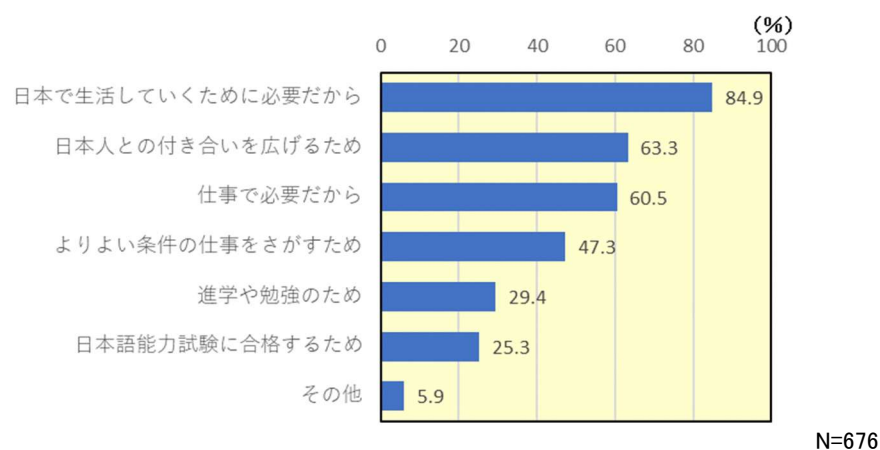
図表 32 今後の日本語学習の意向×在留資格別・仕事の状況別・日本での居住年数別



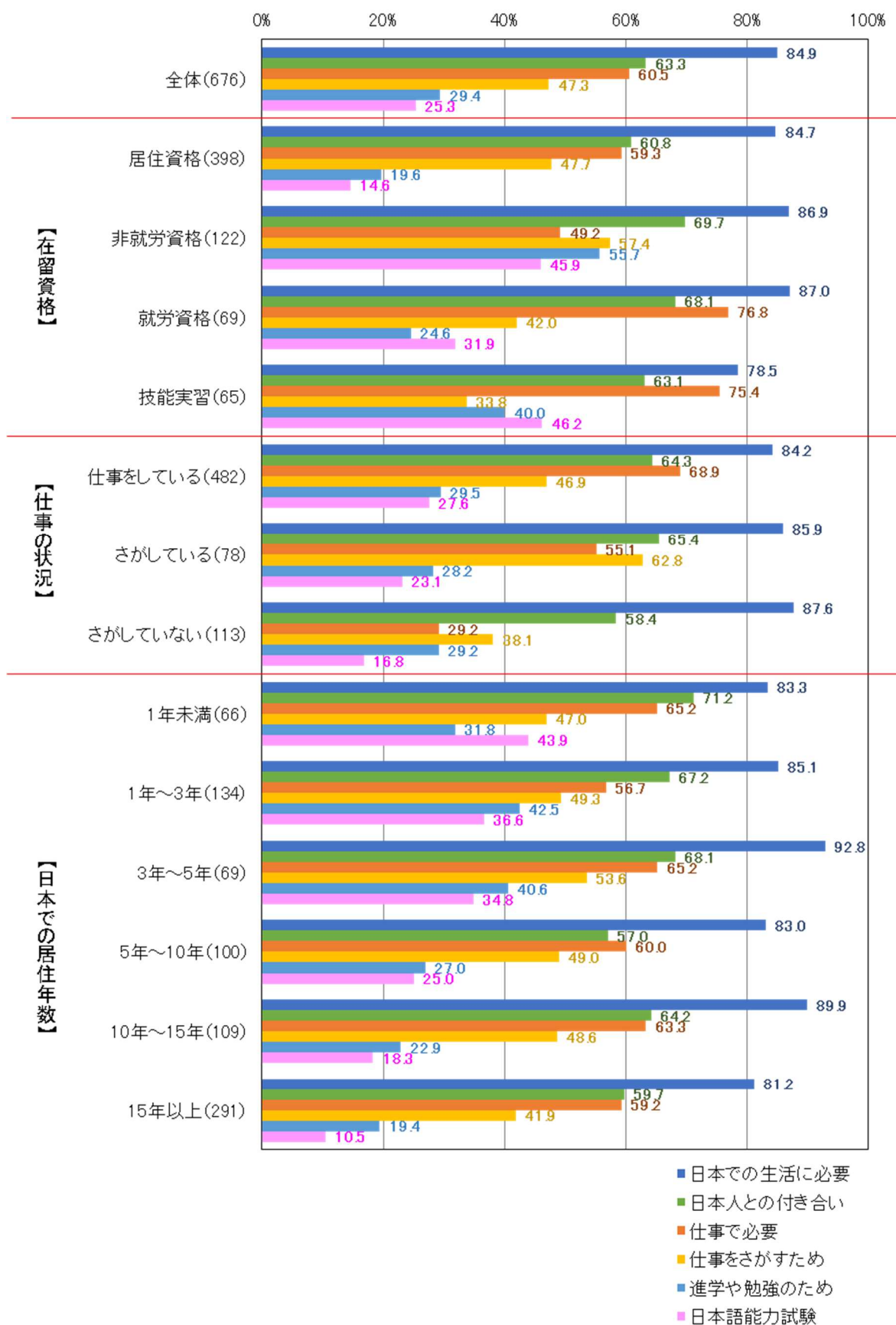
【現在の学習を続けたい、またはこれから新しく学びたい、学びたいができないと回答した人が対象】

- ・今後の日本語学習の目的は、「生活のため」「日本人との付き合い」「仕事」が60%以上（図表 33 参照）
- ・「日本での生活に必要な」は在留資格別、仕事の状況別、日本での居住年数別を問わず多い
- ・在留資格別では、「就労資格」「技能実習」において「仕事で必要」が多く、「居住資格」「非就労資格」において「仕事を探すため」、「非就労資格」において「進学や勉強のため」が多い
- ・仕事の状況別では、「仕事をしている」において「仕事で必要」が多く、「仕事をさがしている」において「仕事をさがすため」が多い
- ・日本での居住年数別では、5年未満の比較的短い人で「日本語能力試験」が多い（図表 34 参照）

図表 33 今後の日本語学習の目的（複数回答）

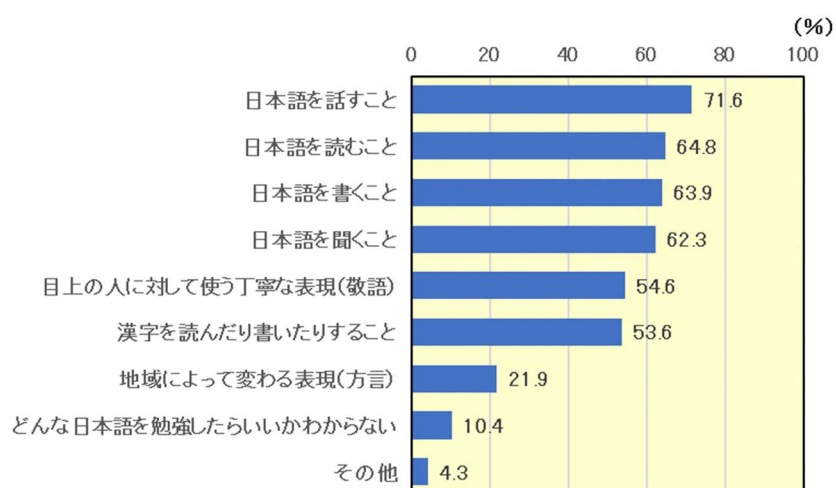


図表 34 今後の日本語学習の目的×在留資格別・仕事の状況別・日本での居住年数別



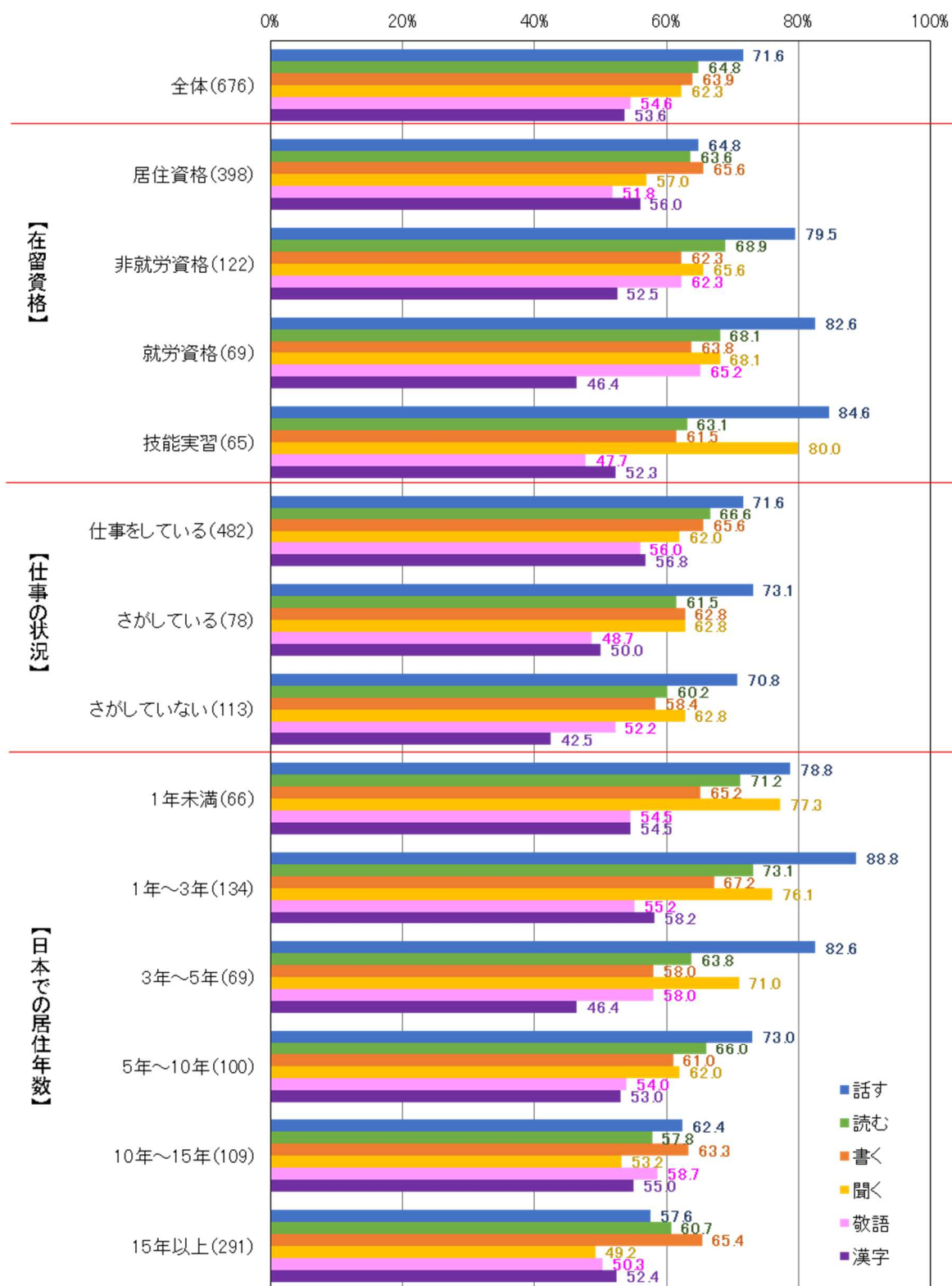
- ・ 学びたい日本語の種類は「話す」「読む」「書く」「聞く」が 60%以上。「敬語」「漢字の読み書き」も 50%以上（図表 35 参照）
- ・ 在留資格別では、「非就労資格」「就労資格」「技能実習」において「話す」が多く、「技能実習」においては「聞く」も多い
- ・ 仕事の状況別では大きな差異はないが、「さがしていない」において「漢字」がやや少ない
- ・ 日本での居住年数別では、長くなるほど「話す」「聞く」が少なくなる（図表 36 参照）

図表 35 学びたい日本語の種類（複数回答）



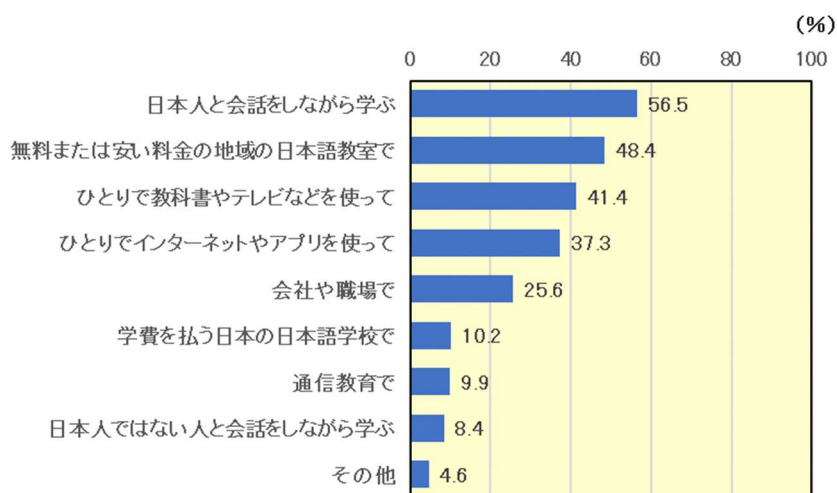
N=676

図表 36 今後の日本語学習の目的×在留資格別・仕事の状況別・日本での居住年数別



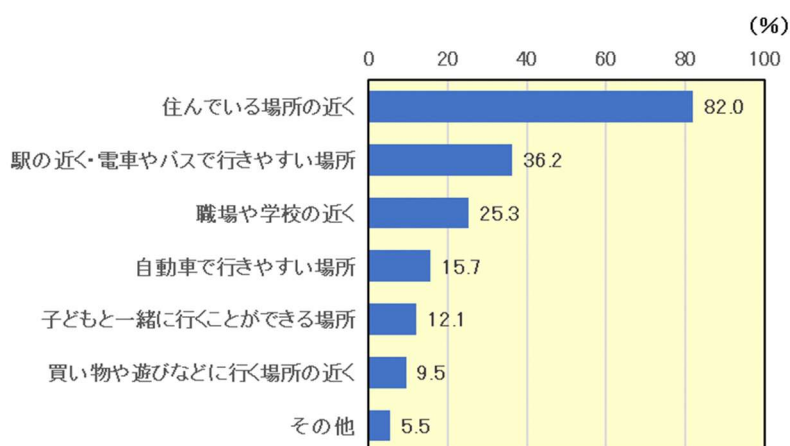
- ・希望する日本語学習の方法は、「日本人と会話しながら」が 56.5%、「日本語教室」が 48.4%（図表 37 参照）
- ・希望する日本語学習の場所は、「家の近く」が 82.0%、「主要駅の近く」は 36.2%（図表 38 参照）
- ・在留資格別、仕事の年数別、日本での居住年数別による大きな差異はなく、「家の近く」が多い（図表 39 参照）

図表 37 希望する日本語学習の方法（複数回答）



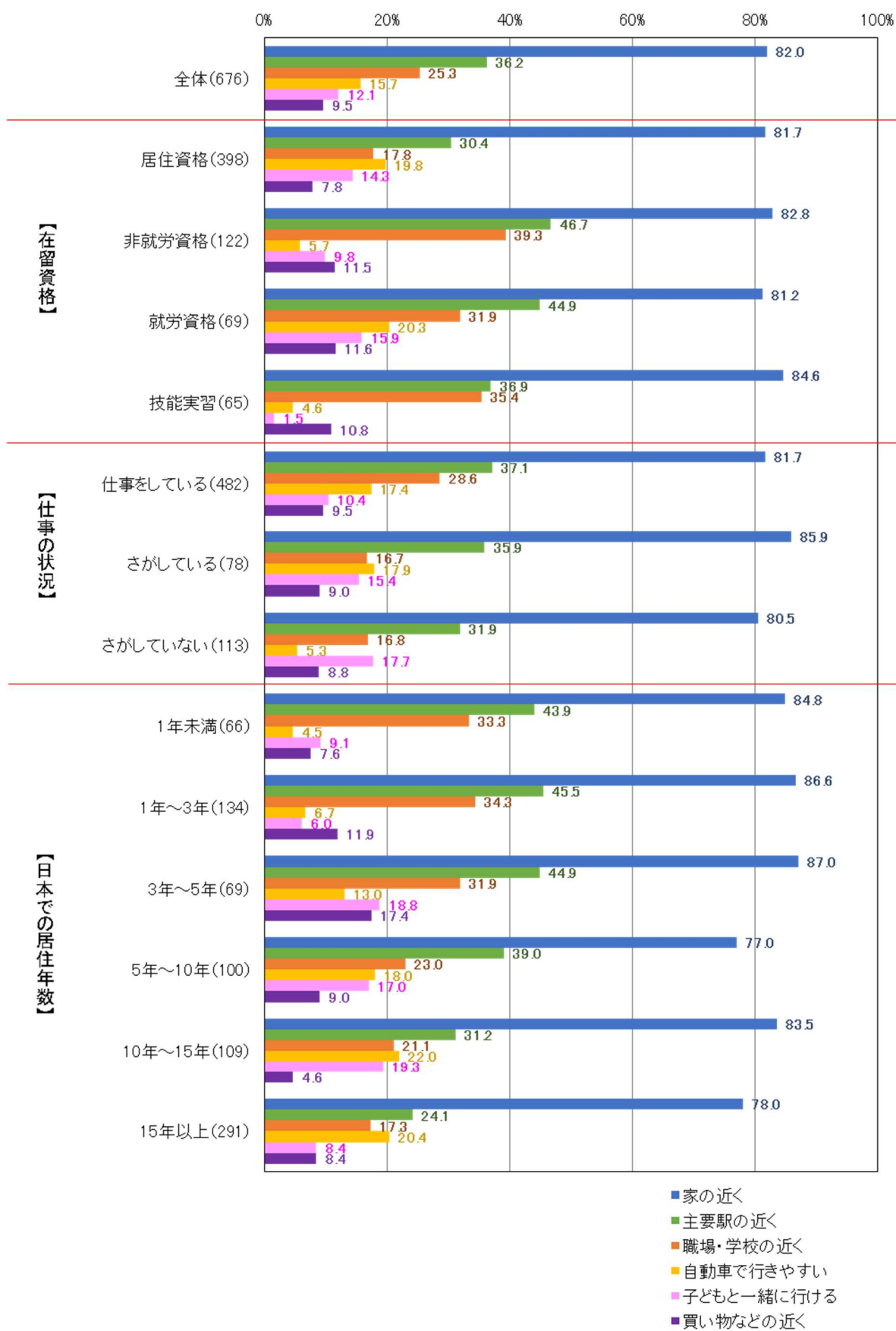
N=676

図表 38 希望する日本語学習の場所（複数回答）



N=676

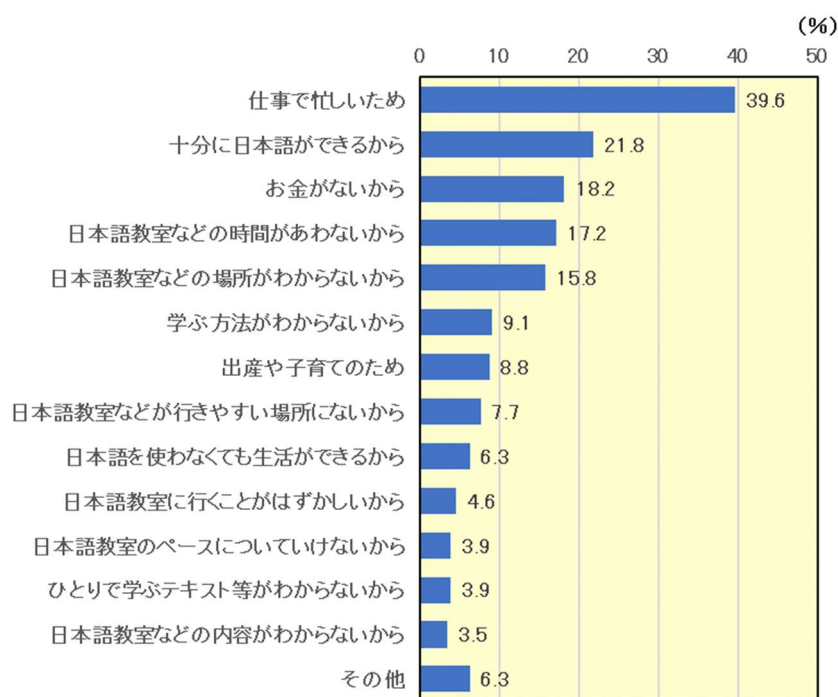
図表 39 今後の日本語学習の場所×在留資格別・仕事の状況別・日本での居住年数別



【学びたいができない、学びたくないと回答した人が対象】

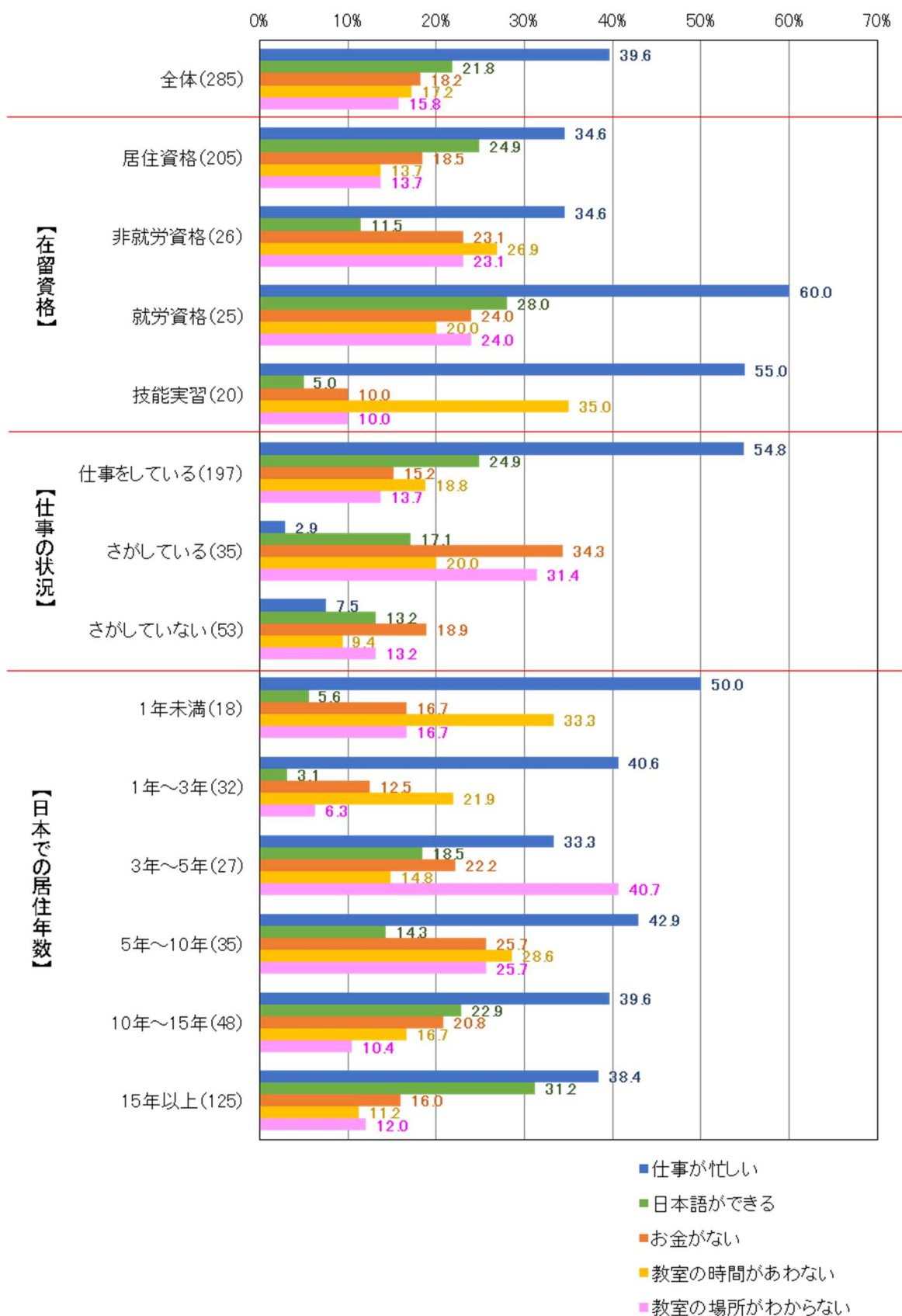
- ・日本語学習を希望しない理由は「仕事」が 39.6%。「お金がない」「時間があわない」「場所がわからない」が 20%程度（図表 40 参照）
- ・在留資格別では、「仕事が忙しい」は「就労資格」「技能実習」、「日本語ができる」は「居住資格」「就労資格」、「お金がない」は「居住資格」「非就労資格」「就労資格」、「教室の時間があわない」「教室の場所がわからない」は「非就労資格」「就労資格」に多い
- ・仕事の状況別では、「仕事が忙しい」「日本語ができる」は「仕事をしている」、「お金がない」は「仕事をさがしている」、「教室の時間があわない」は「仕事をしている」「さがしている」、「教室の場所がわからない」は「仕事をさがしている」に多い
- ・日本での居住年数別では、長くなるほど「日本語ができる」が多くなる（図表 41 参照）

図表 40 日本語学習を希望しない理由（複数回答）



N=285

図表 41 日本語学習を希望しない理由×在留資格別・仕事の状況別・日本での居住年数別



家族や友だちなどの日本語について

あなたの家族や友だちなどで、日本語に困っていたり日本語を勉強したい人

年齢層は5歳から80歳まで、回答者との関係は、配偶者をはじめ、親、子ども、兄弟姉妹、おじ・おば、従弟等の家族・親族、友人・知人等、218人についての回答があった。

日本語で困っていること、日本語学習の目的は、子どもの学校での勉強、進学、就職や転職、仕事でのコミュニケーション、日常生活、病院、公的手続き等の生活でのコミュニケーション、資格取得等が挙げられている。

日本語を勉強しやすくするための提案（主な自由記述意見）

日本語教室について	● 日本語教室を増やしてほしい ● 土日に日本語教室を開催してほしい ● 日本語教室の開催曜日を増やしてほしい ● 日本語を勉強したい人にあった時間を設定する ● 働いている人でも通いやすい夜に開講してほしい ● 住んでいる近くに日本語教室があるとよい ● 各区に日本語教室があるとよい ● 無料または安い料金の日本語教室があるとよい ● 日本語を勉強できるグループがあるとよい ● 義務教育のように義務として勉強する機会があるとよい
日本語教育の講師について	● ボランティアで日本語を教えてくれる人が増えるとよい ● お金を出して先生を増やしてほしい
日本語教育内容について	● 日本語の会話を勉強したい ● ビジネスレベルのレッスンをしてほしい
日本語教室の情報	● 日本語教室を紹介、情報提供してください ● 市役所・区役所でお知らせしてほしい ● 日本語教室の情報が家まで届いたら、もっとわかりやすい ● 母語での説明があればより覚えやすい
日本人との交流	● 日本人と交流する・コミュニケーションをとる ● 日本人の友人をつくる
学習方法	● オンラインで勉強できる環境があれば、いつでも、どこでも日本語を勉強できる ● 日本のテレビを観ることでとても勉強になる ● 音楽を聞く、日本の歌を歌う ● アニメ、ドラマ、映画を見る。ラジオを聞く ● ひらがなやカタカナのフリガナがある漫画や本
情報提供方法	● 漢字にフリガナをつける ● 多言語で情報提供する
日本人の意識	● 日本人はもっと親切に ● 偏見をなくしてほしい
日本語学習について	● 本人のやる気次第である ● 努力が必要である
教科書について	● 日本語の教科書を無料で配ってほしい

3 地域日本語教室の状況（地域日本語教室アンケート調査結果より）

◆調査対象：名古屋市内の日本語教室 32 教室

No.	区	日本語教室名
1	千種区	ほしがおか日本語教室
2	千種区	ライトアンドライト日本語教室
3	北区	黒川日本語教室
4	西区	日本語教室（聴覚障害者向け）
5	中村区	あいち日本語の会
6	中村区	NIC 日本語の会
7	中村区	NIC 高校生日本語教室
8	中村区	NIC 子ども日本語教室
9	中村区	子ども日本語教室
10	中区	あいち国際プラザにほん語教室
11	中区	日本語教室「あかさたな」
12	中区	いろは日本語の会
13	中区	名古屋 YWCA グローバルスクール「ファミリークラス」
14	中区	名古屋 YWCA グローバルスクール「子ども日本語クラス」
15	中区	ことばの会
16	中区	トライシクル教室
17	中区	東別院日本語教室
18	中区	東別院日本語教室・夜の部
19	中区	ヘルピングハnds日本語教室
20	中区	MER NIHONGO Club
21	中区	らんぐ日本語教室
22	熱田区	Japanese Language Volunteer in Nagoya
23	中川区	日本伝統文化茶道華道ひまわりの会
24	中川区	らくらく日本語教室(こども教室)
25	港区	九番団地日本語教室 アウラドキューバ
26	港区	丸池荘日本語教室 スマイル
27	南区	チウンタムみなみ日本語教室
28	南区	みなみ文化日本語教室
29	緑区	子ども日本語教室
30	緑区	ヒルズ日本語 de ウォーク
31	緑区	みどり日本語教室
32	緑区	森の里 にほんご教室

(1) 調査の概要

◆回収状況

配布数	回収数	回収率
32	23	71.9%

◆調査方法

メールまたは郵送による配布、回収

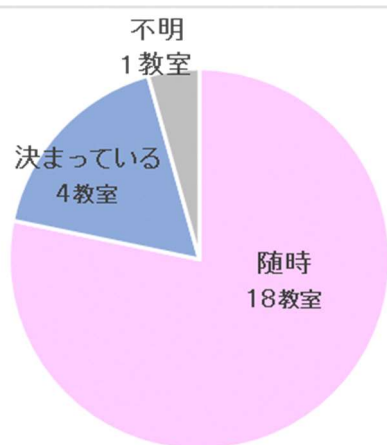
◆調査項目

- 教室名
- 主催団体
- 開講する教室の概要
- 今後の教室運営の意向
- 名古屋市が策定する「名古屋市地域日本語教育推進の考え方」に対するご意見、ご提案
- ヒアリングへのご協力をお願い

(2) 調査結果の概要

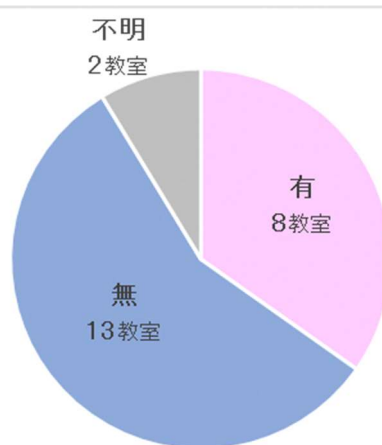
- ・日本語教室の学習者の募集期間は、「随時」が 18 教室、「決まっている」が 4 教室である（図表 42 参照）
- ・受講資格については「有」が 8 教室、「無」が 13 教室（図表 43 参照）
- ・年齢制限については「有」が 12 教室、「無」が 10 教室。「有」の場合、子どもに限定している教室と中学生、高校生相当年齢以上を対象にしている教室がある（図表 44 参照）
- ・子どもの受講については「可能」が 11 教室、「不可」が 6 教室（図表 45 参照）
- ・教室への子どもの同伴については「可能」が 10 教室、「不可」が 8 教室（図表 46 参照）
- ・教室での託児は「できる」が 2 教室のみ（図表 47 参照）

図表 42 学習者の募集時期



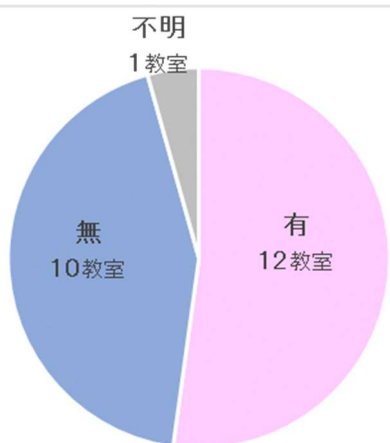
N=23

図表 43 受講資格の有無



N=23

図表 44 年齢制限の有無

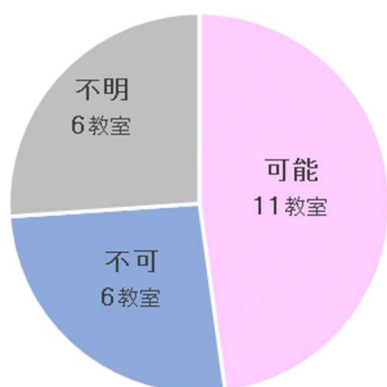


N=23

【「有」の詳細】

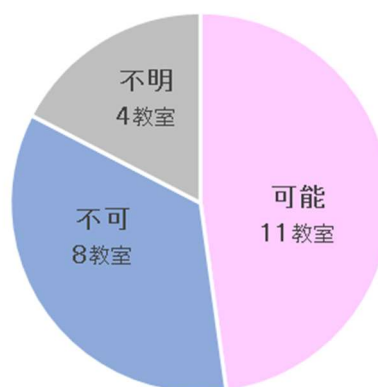
- ・ 6～15 歳
- ・ 6 歳から 16 歳
- ・ 12 歳～
- ・ 15 歳～
- ・ 16 歳以上
- ・ 高校入学相当年齢～

図表 45 子どもの受講の可否



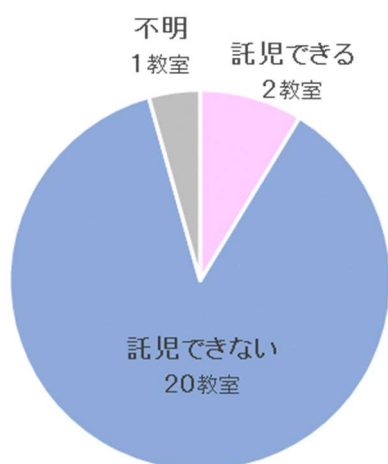
N=23

図表 46 子ども同伴の可否



N=23

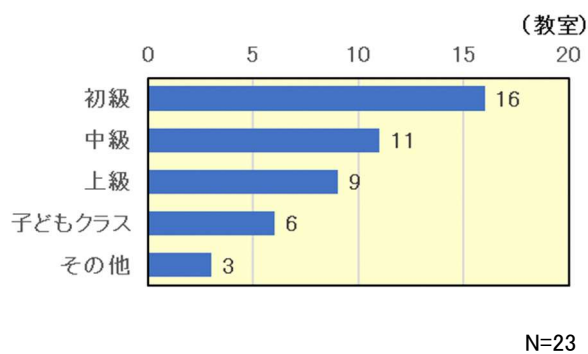
図表 47 託児の有無



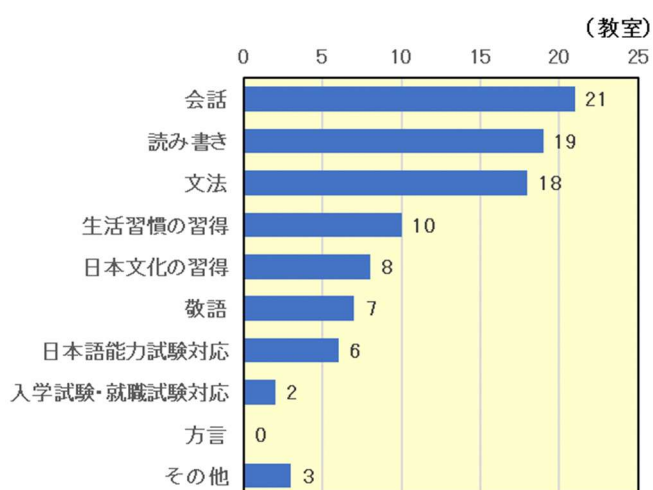
N=23

- ・開講クラスは「初級」が 16 教室、「中級」が 11 教室、「上級」が 9 教室、「子どもクラス」が 6 教室（図表 48 参照）
- ・教えられる内容は「会話」21 教室、「読み書き」19 教室、「文法」18 教室が多い（図表 49 参照）
- ・教室形態は「マンツーマン」「少人数グループ」が 11 教室、「教室形式」が 10 教室（図表 50 参照）
- ・学習者の状況は、「10 人以下」が 6 教室、「21～30 人」「31～99 人」が 5 教室（図表 51 参照）
- ・学習者の募集方法は、「チラシの配布」が 16 教室と多い（図表 52 参照）
- ・講師の状況は、「10 人以下」が 10 教室、「30 人以下」が 5 教室、「45～72 人」が 4 教室（図表 53 参照）
- ・講師・スタッフの募集は、「講師を募集している」が 11 教室。一方、「募集していない」が 7 教室（図表 54 参照）
- ・レクリエーションや体験プログラム等を実施しているのは 17 教室（図表 55 参照）

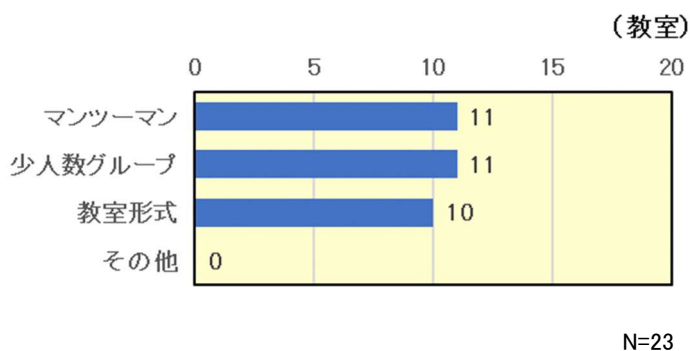
図表 48 開講クラス講座のレベル（複数回答）



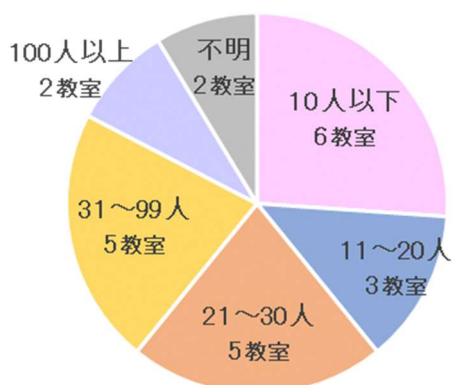
図表 49 教えられる内容（複数回答）



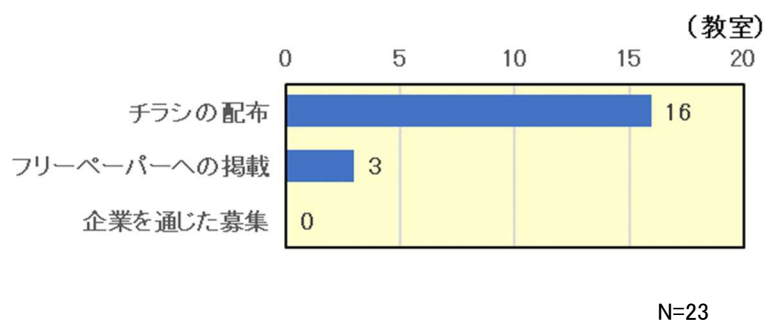
図表 50 教室形態（複数回答）



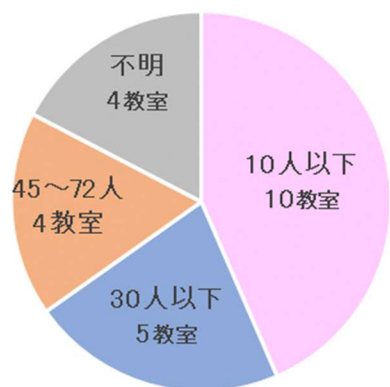
図表 51 学習者の状況



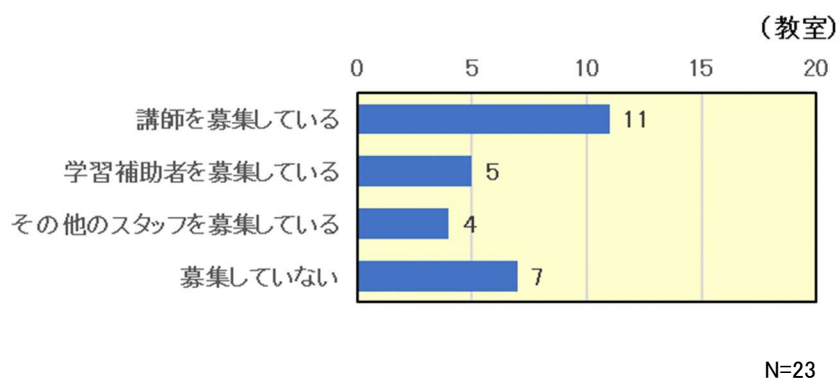
図表 52 学習者の募集方法（複数回答）



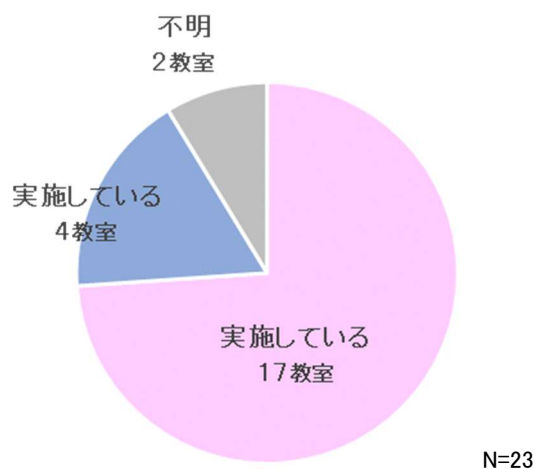
図表 53 講師の状況



図表 54 講師・スタッフの募集状況（複数回答）

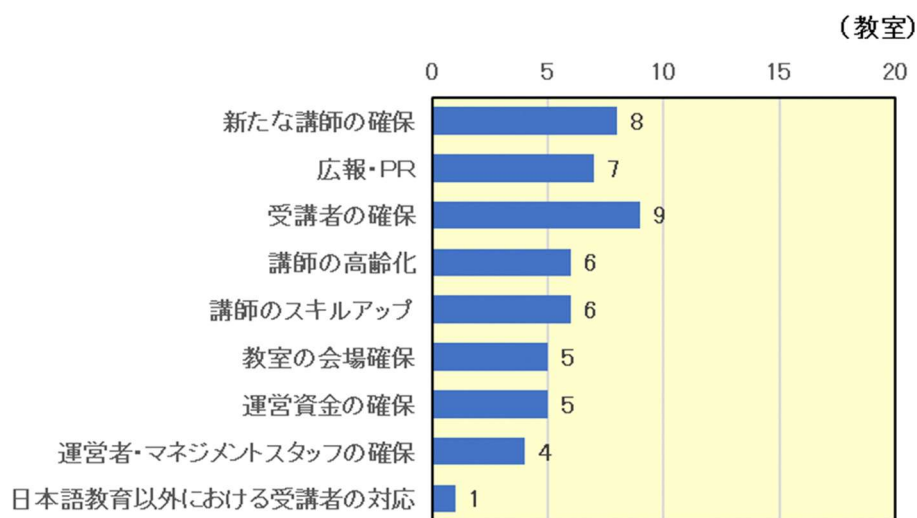


図表 55 レクリエーションや体験プログラム等実施状況



- ・今後の教室運営の課題は「受講者の確保」「新たな講師の確保」をはじめ、ほとんどの項目に回答がある（図表 56 参照）
- ・今後の教室運営の意向は「講師を増やしたい」「講師の技術力を向上させたい」といった教室の充実が挙げられている（図表 57 参照）

図表 56 今後の課題（複数回答）



N=23

図表 57 今後の意向（複数回答）



N=23

名古屋市が策定する「名古屋市地域日本語教育推進の考え方」に対するご意見、ご提案

[日本語教室の充実]

- 区単位で地域日本語教室を増設する
- 遠くから来なくていいように、日本語教室を増やす
- 幼児連れの親が学べる教室をつくる（近くて安全な場所）

[日本語教室支援の充実]

- 既存の日本語教室の課題解決のための援助等を考えてほしい
- 市内の日本語教室に対する助成金制度について盛り込んでほしい
- 日本語教室の開催場所の安定的な確保のために金銭面での補助と会場の提供について考えてほしい

[外国人住民への支援の充実]

- 日本語教室の充実で地域に密着した外国人住民のための日本語サポートができると考えられる
- 急速に増えている外国人に対し、日本語教育、生活援助に取り組む施策を早急に用意してほしい

[策定方法]

- 「考え方」の策定にあたっては、既存の日本語教室とタイアップしながら進めてほしい

[その他]

- 市は実情を把握するだけでなく、県や国に対する働きかけもすべきである
- 労働力ではなく労働者とその生活を担保するという視点が、企業やその後押しをする国には欠けているように思う
- 当教室は子供対象の教室であることから、アンケートの質問項目と合致しない・どう答えたらいいか困る部分がありました。本来は担当者が教室に足を運び、まず現場を見てもらうことが先なのではと思う

4 地域日本語教室等ヒアリング調査結果

(1) ヒアリング調査対象

市内日本語教室、地域団体、大学等：15 団体

(2) ヒアリング調査まとめ

日本語教室 A

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- 場所とお金の確保が課題である。
- 場所は安価で、わかりやすい場所であることが必要である。
- スタッフは、ボランティアではあるが、交通費や駐車場代ぐらいは支払いたい。
- 名古屋市からの支援はいただいているが、支援対象経費にボランティア保険も含めてほしい。

[スタッフについて]

- ボランティアをやりたいという希望は多くなっている。
- スタッフとして若い人、男性に参加してもらいたい。若いスタッフと学習者が話すと話題も合い、楽しそうである。

[学習者について]

- インターネットでの P R、チラシの配布（教会等）、NIC の日本語教室リストへの掲載もしているが、口コミで増えている。
- 週 1 回、1 時間半の授業だけで日本語が上達することは難しい。
- 技能実習生は、最初はやる気があっても、仕事が忙しくなり、経済的な問題等があるようで、3 か月ぐらいで来なくなることが多い。

[連携について]

- 地域との連携は 1 団体でやるのは難しい。仕掛けや仕組みが必要である。
- 技能実習生等外国人を受け入れている企業には、従業員に対して日本語教育をしっかりとってもらう必要がある。
- 大学からの日本語教育の現場に学生を参加させたいとの依頼があり、受け入れているが、大学側にはもっと丁寧に関わってもらいたい。

[今後の日本語教室・日本語教育について]

- 入管、区役所で日本語教室に関する情報提供ができるとよい。
- 日本語教室が足りなくなるのはわかっている。
- 現在、日本語教室がない地域には立ち上げる必要がある。
- 既存の教室が新しいスタイルになることは難しい。
- 土日・夜間の教室が必要だと思う。学べる時間帯を拡げ、どのような場を作っていくのか、仕掛けが必要である。学習を継続させることを支援する必要がある。
- 新しい指導者やスタッフを養成してほしい。
- 日本語教師になるための講座を受講するのは多額のお金がかかる。資格取得まではいかないが、

安価で、日本語教育の指導法を学べる場がもっとあるとよい。いろいろな人が関われるようになるとよい。

スタッフの意見

- 学習者によって学びたい内容のニーズが異なる。選択できるようになるとよい。
- 会場費を出せるぐらいの補助金は出してほしい。
- 技能実習生は続かない。労働条件を把握することも重要である。実態を把握してほしい。
- 日本語教室がどこにあるのか知らない人もいる。どこに相談してよいかわからないこともある。区役所に窓口を設置して情報提供してもらいたい。

学習者の意見

[日本語教室を選んだ理由・好きなところ]

- 「近い」「友人からの紹介」が選んだ理由である。
- 生活のことを相談できる。
- いろいろな国の人と交流できる。
- 先生が優しい。学習者と先生と LINE で家族のように交流できる。

[学びたい日本語]

- 「実生活に使える日本語」「病院での言葉」「敬語」「ビジネス日本語」「漢字の読み書き」「日本人と同じぐらいの日本語」を学びたい。
- N4 を受験したい。

[日本語教室に期待すること]

- 日本語を勉強している間に託児をしてほしい。
- 週末に教室を開催してほしい。
- 週3回以上通いたい。
- 他の日本語教室にも通っている。(週2回以上)
- 教室は変わるが、学習者のグループは同じである。

日本語教室 B

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- 場所の確保が課題である。会場の規定により当団体は料金がかからない状況で、概ね希望通り確保できているが、毎月受付に並ぶ必要がある。
- うまく場所が取れないときはロビー等も使用する。
- 近隣から通っている学習者が多い。
- テキストに基づき日本語教育を行っている。会話をしたい、資格試験に挑戦したい、日本語を書くといったニーズには応えていない。
- スタッフの資格の有無は不問であるが、スキルアップの取組ができていない。他の研修等のチラシを掲示しているが、参加率は悪い。

[スタッフについて]

- 1クラス2～3人の担任制で行っている。(全8クラス)
- スタッフは40歳代、50歳代が多く、仕事帰りにボランティアをしてもらっている。

- 2年前から日本語教師を育成している講座にお願いして、ボランティア募集をしている。

[学習者について]

- インターネット、友人・知人の紹介、NICの日本語教室リストを見て教室に来ている。
- 企業が、技能実習生を連れてくることもある。
- 現在の最年少は中学2年生である。進学を考えており、通信制か定時制の高校を検討している。以前に進学した人は公立高校の外国人枠を利用していた。
- 以前は小学生の低学年も受け付けて、大人と一緒に勉強していたが、集中できる時間が短く、他の学習者からのクレームもあり、現在は子どもの受付は行っていない。

[今後の日本語教室・日本語教育について]

- 教室の数が少ない。
- 各区、交通の便のよいところに日本語教室を設置し、土日も含めて曜日、時間を学習者が選べるとよい。
- 教室の特色も必要である。
- ボランティアのための日本語教育のスキルアップ講座があるが、参加できないとの声も聞く。機会を増やしてもらいたい。資格のない人が日本語の指導方法を勉強できるところが安価であるといい。

日本語教室 C

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- 場所の確保が大変である。

[学習者について]

- 希望者が増加している。住所を聞いて、他を紹介することもある。
- 友人・知人からの紹介、インターネット、NICの日本語教室リストでの照会が多い。
- 日本語教室が同国人を見つける出会いの場にもなっている。
- 日本人と話をするのが教室だけという人もいる。
- 言葉の裏に文化の違いがあるので、それをお互いが理解し合わないと友人関係が築けない。
- 日本人と結婚している外国人については、日本語ができなくてもよいとするのではなく、学校、PTA等に参加して地域デビューすることをお勧めしている。

[連携]

- 地域と日本語教室を仲介する人が必要である。
- 地域において、日本語教室でできることがあれば対応する。

[今後の日本語教室・日本語教育について]

- 企業は外国人従業員の家族についても手当てをすべきである。家族が日本になじめなければ従業員も働けないと思う。
- 日本語教室に補助金を出すのであれば、現場を見て、レベルをそろえる必要がある。
- 日本語教室が近くにないと続けることが難しい。
- 学習者がニーズに応じて教室を選べるように整備する必要がある。

スタッフの意見

[始めた動機・やりがい等]

- ボランティア活動をしたいと思っていて、日本語教室のボランティアがあることを知り、参加している。
- 日本語教師の資格を得てそれを活かすためにボランティアをしようと思い、教室を探した。
- 他の日本語教室では子育て中のスタッフはボランティアとしても登録できないと言われたが、この日本語教室では逆に子育て世代のスタッフが強みとして働ける。子ども同士での交流の場や、同じ子育て世代として相談にのれる。

[スタッフの待遇等]

- 教室のスタッフはボランティアであり、交通費も自腹である。
- 日本語の指導法を学ぶことなくボランティアスタッフを始めている人が勉強する機会、講座があるとよい。
- スタッフが増えない。(特に若いスタッフ。大学生等)
若い学習者に対しては若いスタッフの方が多くの共通点があり、話題が広がる。

[学習者について]

- 学習者が日本語教室で学習している間に、託児ができるとよい。ニーズは多い。
- 学習者には、勉強がしたい、交流がしたい、生活の相談をしたい等様々なニーズがある。ニーズに合ったことができるのがボランティアの良さである。
- 週1回の授業ではなかなか進まず、上達が遅くなる。
- 初期教育は専門家が教えること、短期間で集中的に行えると良い

[今後の日本語教室・日本語教育について]

- 子どもたちは学校等で予算も人手もかける必要があると思う。学校に行けない子どもは日本語教室に来てよいのではないかな。
- 学習希望者、ボランティア希望者への情報提供ができるような窓口が公的機関にあると安心である。
- 企業には雇う外国人に日本語を教える責任感を持ってほしい。

学習者の意見

[日本語教室について]

- 日本語教室を選ぶポイントは、「近い」「安い」「時間があう」
- 日本語教室を知ったきっかけは、「レストランで紹介された」「インターネットで調べた」

[日本語を学ぶ目的]

- 勉強したい日本語は、「話し言葉」「生活で使える日本語」「方言」「書くこと」「日本語能力試験」
- 言葉ができないと仕事ができない、得られない。
- 日本語教室に来ることは、友だちと出会う場、ストレス解消の場にもなっている。
- 日本語教室は学習者と講師、学習者同士の仲が良い。日本語だけではなく何でも教えてくれるところがよい。教科書しか教えてくれない日本語学校、日本語教室もある。
- 外国人が日本語を学ぶようになるためには、日本での自分の生活に目標を持つようになることが必要だと思う。

- 日本語の学習には日本の文化や歴史を知ることでも大事だと思う。

[要望等]

- 日本語教室に親子教室があるとよい。小さい子どもがいると日本語教室に来ることは難しい。
- 日本人とじっくり気軽に会話できる貴重な場である。仕事等でも日本語で話すが、事務的な会話しかない、じっくり日本語を話すことはない。
- 生活に余裕があることも大事だと思う。生活のために仕事が忙しい、時間がないと、日本語を学ぶ余裕もないと思う。
- 日本語教室を外国人にきちんと知ってもらうことも大切。日本語が分からない人が、日本語のリストや情報を見てもわからない。外国語での日本語教室の案内があるといい。

日本語教室 D

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- スタッフに交通費は出しているが、続けてもらうためにはそれ以外の費用も必要である。

[スタッフについて]

- ボランティアは、地域の人、高校生・大学生、元教師や元保育士、日本語教師の資格を持っている人もいる。特に資格は問わない。

[学習者について]

- 子どもが対象の教室ではあるが、超過年齢の子どもや大人も受け付けている。
- 大人は仕事が忙しく続かない。
- 子どもは保護者の理解がないと来たくても来られないこともある。

[地域との関係について]

- いろいろな考えを持った人がいるので、対話は必要である。

[名古屋市地域日本語教育推進の考え方について]

- 問題意識をもって活動している人たちが多く、日本語教室が集まって、策定に関していろいろなことを言える場があった方がよい。
- グランドデザインが見られる場が必要である。
- ボランティア、NPOと一緒にやりましょうという姿勢は大事である。

[今後の日本語教室・日本語教育について]

- いろいろな支援はあてにしているので、行政には続けてもらうことが大事である。
- 行政が日本語教育について考えるのであれば、なぜ学校で日本語をきちんと教えないのか。学校・教育委員会が対応すべきである。学校が実施するのであれば、全員が対象となり、親も安心できる。

日本語教室 E

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- 交通費が出せないためにボランティア希望者を断っている状況である。
- 市営住宅の自治会会長と民生委員が担っており、他に役割を担える人材がいない。

[学習者について]

- 子どもに週 1 回放課後に宿題や日本語を教えている。地域の役員と子どもとのつながる場になっている。
- 不就学児童が通っていた時期もある。

[連携]

- 小中学校とつながりを持ち、情報共有できている。

日本語教室 F

運営者の意見

[大学との連携の経緯]

- 現在の教室に使っている場所の所有者が変わり、今後使えなくなるかもしれないという危機感があった。
- 日本語教室と学生との関係性を作れないかと考えていた。
- ボランティアスタッフに卒業後も出身大学とのつながりがある人がいたため、大学との連携に取り組むことができた。

[連携の内容]

- 日本語教育プログラムに参加している学生と学習者の交流会を実施した。
- 交流会の次のステップとして、大学生に日本語を教えてもらう機会をつくることにしている。学生はサークル活動として行っている。
- 大学を会場として使い、学生が教えるという体制をめざしている。
- 大学としては、学生の活動であれば、平日の夜間に大学を使って良いというスタンスである。現在は日本語教室に貸す、大学の事業として日本語教室を行うというスタンスではない。

[今後の日本語教室について]

- 日本語教室は土曜日の夜に開講、大学は平日夜に利用可能。
- 現在の日本語教室の場所が使えなくなった場合は、大学で開講したい。
- 仕事をしている人は平日の学習が難しいので、土曜日の場所は確保する必要がある。
- 区役所の会議室を日本語教室の会場として使えると良い。

[学習者について]

- 受入企業が技能実習生を集団で連れてきて受講させることもある。受講料は企業がまとめて払っている。企業としては日本語教育を受けさせているという実績がほしいという面もあるようだ。ただ、1～2 回で来なくなるケースが多い。

[日本語教室の今後のあり方について]

- 日本語教室には、きちんと日本語を教える教室や交流中心の教室等様々あるが、基本は自由でいいと思う。行政からの支援が厚くなると縛りが厳しくなるのはやむを得ないことなので、支援は

会場の確保程度でよいと思う。

- 名古屋市はボランティア主体の様々な日本語教室があり、学習者はそれを選択できるということが特長でありメリットだと思う。

日本語教室 G

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- 場所の確保が難しい。安定的な場所の確保ができるとよい。
- これまでに3回場所を変わってきている。よく続いていると言われる。
- 一時期NPO法人化も検討したことがあるが、メリットがあまりなかったため、ボランティア団体として活動している。
- 名古屋市からの活動助成の補助金は、会場確保のためになくてはならないものである。
- 日本語教室の運営がボランティアによって支えられていることに危うさを感じている。場の確保、人の確保で、これ以上の活動は難しいと感じている。
- 運営者の後継者の確保も課題であるが、当団体では後継者の確保も進んでいる。

[学習者について]

- 受講者は主婦、学生が多い。現在は技能実習生はいない。
- 出たり入ったりはあるが、長く通っている人もいる。
- 初級講座で、N4レベルの日本語能力を身につけてもらうことを目指している。
- 長く通っている学習者にはスタッフ側に入ってもらうことも検討していきたい。
- 日本語教室が居場所づくり、仲間づくりの場にもなっている。
- 受講者は口コミ、インターネットで来る人が多い。友達からの口コミで来る人は、一緒に頑張ろうと、長続きする人が多い。
- 技能実習生は続かないことが多い。

[スタッフについて]

- 各教室3名のスタッフを配置するようにしている。
- 日本語教師の有資格者が多い。(日本語教師養成講座を実施している企業にチラシを配布したりして講師の確保をしている。)
- プロの日本語講師として活動している人も多くいる。
- ボランティアで運営をしている。
- ボランティアよりも職業として働く方がよいという風潮等、社会経済状況によって、講師の確保が難しくなることも懸念される。

[日本語以外に教えていること]

- お花見や年に1回のイベントを実施している。日本で暮らしていくうえで覚えておいてほしいことを伝えることもある。
- 子どもの学校で配られるプリントや近所づきあいのこと等日本語以外の相談もある。
- 履歴書の書き方、電話の対応の仕方等も行っている。

[連携について]

- 以前、会場確保のためには企業と連携をすればよいというアドバイスをいただいたことがあるが、どのようにすればよいのかわからなかった。
- 大学との連携についても、どのようなことができるのかイメージができない。
- 受講者に大学生がいるが、学生の日本語教育は大学で対応していくものだと思う。
- 日本語教育をやりたい、日本語教室をやりたいという新しいグループが出てくることも大事である。いろいろな教室があつてよい。日本語教室の運営等のノウハウの提供等で協力することもできる。

[名古屋市への要望]

- 人材派遣会社等から技能実習生の教室への参加依頼があるが、5人以上になる場合は有料でのプライベートレッスン形式での対応を提案している。その場合は、講師に声をかけて、対応できる人が個人的に依頼を受けている。ニーズはあると思うので、このような仲介を公的な機関が行うとよい。
- 場所を名古屋市が確保して、その運営は、曜日、時間で日替わり、時間替わりでいろいろな団体ができるとうい。運営者側は場所確保の心配がなくなり、受講者は希望の曜日・時間に日本語を学ぶことができる。
- 名古屋市には重点的に日本語教室を配置する地域を決めて、場所の確保をしてほしい。
- 行政が旗を振って日本語教育を進めてもらえるとよい。

スタッフの意見

[講師を始めたきっかけ]

- 日本語教育能力検定試験に受かったので、資格を役立てたい。
- 外国でたくさんの方に親切にもらった恩返し。
- 日本語を学びたいと思っている外国人の手助けになればという考えから。
- 日本にいる外国人との架け橋になりたいと思った。
- 語学が好き。日本語の学習が好き。
- 何か役に立てることがあればと思い、始めた。
- 老後を楽しくと思って参加した。

[講師のやりがい]

- 外国人が日本に住むにあたり少しでも力になりたい。
- 日本語を話せない学習者が説明を聞いて、『わかった!!』と目を輝かせたとき。
- スタッフ間の交流と学習者の役に立ったと思える時。
- 教えるというより、学習者と一緒に共に学ぶという雰囲気が好き。
- 人の役に立つことへの喜びを感じている。

[講師としての課題について]

- 効果的な指導法
- 教材研究
- 完全なボランティアであるため、金銭的にも、時間的にも余裕がないこと。
- 勉強することへの意欲の継続。

- 文化の違いや歴史も背景に入れながら教える。

[外国人の日本語学習の課題について]

- ことばで困っている人がたくさんいることと、体系的に組織として教える体制ができていないと思う。
- 『外国人』と一言と言っても、学生、勤め人、主婦等立場によって学習ニーズが異なる。『多様なニーズ』への対応は、企業や行政の役割が重要。
- 継続して学習できる環境づくり
- 学校での日本語教育が重要だと思う。
- 高齢の外国人が日本語をマスターできるように何をしたらいいか考える必要がある。
- たくさんある日本語教室ですが、それぞれの教室の特徴を伝えて、その人に合ったところを選んでほしい。

[名古屋市への要望等]

- 場所の心配がなく、そこに行けばいつでも日本語が勉強できる環境があるとよい。
- スタッフに交通費ぐらいは出るように金銭的な支援を協力いただきたい。
- 公的補助があるとありがたい。
- 国、行政の考え方がよくみえない。ボランティアをあてにしているように感じる。

学習者の意見

[学びたい日本語]

- 日本語を話したい・聞きたい・書きたい・読みたい。
- 「生活」「仕事」するための日本語。
- 日本人の夫ときれいな日本語で話したい。
- ママ友や学校のコミュニケーションで日本語を話したい。
- 学校の勉強のために日本語を理解したい。
- 漢字も勉強したい。

[日本語教室を選んだ理由]

- 「近い」「安い」「友達から聞いて」「インターネットで」「区役所からの情報提供」

[日本語教室の良いところ]

- 学習が楽しい。
- 先生が優しい・親切、わかりやすい。
- 勉強したい日本語が教えてもらえる。
- 友達が多くいる・できる

日本語教室H

運営者の意見

[日本語教室運営について]

- ボランティアを集めるのが難しい。名古屋国際センターやチラシで募集している。
- 元々が中国残留孤児の生活支援から始まり、その流れの中で、会場管理者との共催事業という形で運営をしているため、場所の確保については問題がない。

- 共催事業の一環としてイベントを年に5回開催している。

[学習者について]

- 40人の定員で、現在20～30人である。
- 中国が一番多く12人、その他はベトナム、ネパール、インドネシア、フィリピン、ベラルーシ、インド等。
- 1年未満が多いが、10年以上の人もある。
- 在留資格は、技術・人文知識・国際業務、家族滞在が多い。
- 勤め人が多いが、学生、主婦もいる。小中学生が現在6人いる。
- 学習者は、口コミで来ることが多いが、NIC、区役所、社協からの紹介もある。
- 派遣会社から学習者を受け入れてもらえないかと連絡があるが、団体からの受け入れは断っている。
- 技能実習生は仕事の関係でなかなか続かない。
- 学習者は、景気が良くなると、残業が増え、日本語教室に来らなくなる。景気が悪くなると仕事が早く終わり、教室に来ることができる。

[日本語以外に教えていること]

- 日本語を教える一貫で、文化・習慣の説明はしている。
- 子どもたちは、学校からの通知を読むこと、進学書類の書き方等も指導している。
- 個人的に自宅で学校の勉強を無料で週4日教えている。残りの日は日本語教室に来る。

[名古屋市への要望等]

- ボランティアのバンクをつくってほしい。継続的に関わってくれる人を紹介してもらいたい。
- 市の施設を利用した教室をたくさんつくってほしい。
- 技能実習生は、外国人労働者としてきちんと扱うべきである。
- 入管法が変わって、これから外国人が増えたときの対応をきちんと考えてほしい。

スタッフの意見

[講師を始めたきっかけ]

- 外国語や外国の文化に興味があり、イベントで日本語教室を知った。
- 国際交流に関心があり、ネットで教室を調べた。
- 以前から国際交流と途上国支援のボランティアとして活動しており、関心があった。
- 語学を活かす活動をしたかった。
- 外国人労働者の問題に関心があった。

[講師をしているやりがい]

- やりがいを感じている。外国人の日本語教育について何とかしないといけないと感じている。
- 学習者が喜んでくれること、学習者の意欲があることを感じている。意欲を持っている人の学習の一助になればと思っている。
- 日本語能力不足のために家庭内や同国人社会の中だけに引きこもり・閉じこもりの在留外国人たちが日本人と交流でき、生活上の不安も解消され、生き生きとした生活が可能になること。
- 日本語教室と関わった外国人たちが、ボランティアに接し、自分たちも人のために役立つ人間になろう、民間レベルの友好大使になろうと考えるようになってくれること。

- 日本語能力の向上で就職できた、上司に信頼されるようになった、言うことを聞いてくれるようになった、日本語検定試験に合格した等のニュースにふれること。

[講師としての課題]

- 教えた経験がなく、試行錯誤している。
- 学習者の自国の言葉で挨拶ぐらいはできると、学習者が安心する。
- 学習者の日本語習得にレベル差がある。同じグループで進める場合の進行方法が課題である。
- 自分が抱えるグループの教案や資料の準備にかかる時間が多い。

[外国人の日本語学習の課題]

- 学習者は、仕事、育児、家事で日本語学習の時間は極めて限定されている。
- 日本語教室に通うための駐車代、交通費と所用時間も大きな負担になっている。
- 外国人に対して日本語教育・日本語教室の情報が足りない。情報をつかみやすくすることが大切である。
- 学習者の母国での就学・学習状況も把握して教えることも必要である。
- 同じグループで学ぶ学習者同士の相性も課題である。
- 学習者が日常的に日本人と接しているかどうかで日本語の習得速度が異なる。
- どんな教育が求められているのか、学習者のニーズに合っているのか。

[行政への要望等]

- 名古屋市各区の生涯学習センター主催で日本語教室を開催するとよい。
- 国は外国人の日本語学習についてどのようなことを目指しているのか明確にすべき。

[その他]

- 日本人との交流がない。交流の場が持てるとよい。
- 交流をするためにはお金もかかる。その支援もあるとよい。
- 高齢者のサロン等があるが、外国人も阻害せず、いろいろな人が集まって、自由に交流できる場があるとよい。

学習者の意見

[日本語を学習する目的]

- 生活のため。
- よい仕事につきたい、仕事で意見を言いたい。
- 日本の文化、社会のルールを知りたい。
- 子どもの学校の先生に相談できるようになりたい。
- 病気の時に医師と話せるようになりたい。

[日本語教室を知ったきっかけ]

- 「インターネット」「友人・知り合いからの紹介」「会社からの紹介」

[教室の良い点について]

- 先生がやさしい。
- 近い。
- 曜日・時間の都合がよい。
- 日本人の先生をはじめ、いろいろな人とコミュニケーションが取れる。

日本語教室 I

運営者の意見

[日本語教室の運営について]

- 日本語教室は、子ども向けと親子向けがある。名古屋市全域から来ているが、名東区、南区、北区、昭和区からが多い。
- 子ども向けは様々なクラスがあるが、不就学の子どもも来ており、不就学の子どもの貴重な場所ともなっている。不就学の問題には当教室においても積極的に取り組む必要があると考えている。
- 親子教室はとても需要が多い。定員 15 人のところ 20 人を受け入れており、他に 10 人程度が待機している。小さい子どものいる親向けの教室であり、子どもについては、教室時間中は保育士が託児している。現在は 0～2 歳の子ども 9 名を託児している。
- 親子教室で学習する人は、生活のためという人も多いが、母語教育も含めて多文化共生に関わりたいという人もいる。

[日本語教育に関する今後の課題について]

- 日本語教師は日本語を教える役割なのか、多文化共生の実現の役割なのかというジレンマがある。また、日本語教育を担うのがボランティアでいいのかという疑問もある。
- 日本語教育は誰のためにやるのか、日本語教育に対する公的補償のあり方をきちんと整理しておく必要があると思う。

日本語教室 J

運営者・スタッフの意見

[日本語教室の経緯]

- 外国人に対して、日本文化を紹介したり、生活のサポートをしたいという趣旨で日本語教室を開講している。
- 現在は、会場は決まった曜日・時間の教室を確実に確保できている。
- 行政からの助成金は場所代、資料代の一部に使っており、講師の交通費は自己負担している。
- 4 月から 7 月の 1 期、9 月から 12 月の 2 期、1 月から 2 月の 3 期で教室を開催している。以前は 3 期目がなかったが、要望があり 2 か月の短期間で開催するようになった。

[学習者について]

- 大人が多いが、高校生、子どもも来ることがある。子ども教室は設けていないが、子どもが来たら対応している。
- 定時制に通う高校生、学校に入学するまでの期間に来る子ども等のケースがある。

[日本語教室の講師を始めたきっかけ]

- 友人に誘われて。
- かつて外国に住んでいた経験があり、日本に住む外国人のサポートをしたい。

[講師のスキルアップについて]

- 日本語指導の研修等は、希望者が多く抽選になり、なかなか参加できない。
- ボランティアのスタンスが様々である。きちんと指導することを重視している人は教え方等のスキルアップが必要。ただし、自分のできる範囲でボランティアとして関わっていきたい人には、スキルアップを求められると続けていくことが厳しくなる。

[行政への要望等]

- 日本語のテキストはいろいろ出ているが、週 1 回、2 時間程度で教えるというプログラムには対応できないものが多い。このため、週 1 回の日本語教室にあったテキストの開発を行政等で作ってもらえるとありがたい。
- テキストを開発し、テキストにあった教え方等の講習ができれば、各地域のコミュニティセンター等で誰でも教えることができるようになるのではないかと。このようにして教える場を増やしていくことも必要。
- ボランティアをしたいと考える人は増えているが、日本語教室を理解することは容易ではない。このため、ボランティア希望者のための説明会・研修会を名古屋市等でまとめて開催して、日本語教室を知ってもらえるとよい。

学習者の意見

[日本語を学習する目的]

- 「話すこと」「書くこと」、特に漢字を学習したい。
- 日本語能力試験の勉強をしている。
- 将来は自国で日本語を仕事に活かしたいと考えている。

[日本語教室を知ったきっかけ]

- 「インターネット」「国際センターでチラシを見て」

[教室の良い点について]

- 先生がやさしい、話しやすい、熱心。
- 近い。
- 曜日・時間が都合がよい。
- 授業中は静かで勉強に集中できる。
- 教室の雰囲気がよい。

[日常的な日本語学習]

- 休憩時間や移動時間にスマホを使って勉強をしている。
- ドラマの言葉や歌詞の言葉を調べながら、日本語を勉強している。子どもとも日本語で話すようにしている。

[日本語で困ること]

- 子どもが病気になった時の対応で困ることがある。生活においてはごみの出し方が難しくてわかりにくい。

[日本語学習の提案]

- 災害の時のハザードマップや避難所等は、ホームページを見ればわかるが、なかなか見ることができない。外国人向けのものを配布したり、説明を聞きながら学ぶ機会等があるといいのではないか。
- 楽しいことをしながら日本語を学べるような機会があればよいと思う。

地域 K

- 日本語教室が立ち上がる 10 年前から外国人コミュニティと地域との接点があった（清掃活動やお祭等）が、関係が悪化した時期もあった。
- 2～3 年前に多文化共生をテーマに地域から外国人コミュニティに声掛けをして、交流が始まっている。同時期に地域で所有する施設を日本語教室の会場として使用したいとの依頼があって、会場を使用できるという状況になっている。
- 地域の役員らが日本語教室のボランティアで協力していて、楽しく子どもたちと交流している。

地域 L

- 市営住宅への入居時には、住宅供給公社から町内会長を紹介されるので、町内会長にあいさつに行き、お互いに顔を覚えてもらうようにしている。また外国人には、何かあったら町内会長に相談するように教えている。
- 積極的に声をかけることにより、お互いに顔見知りになり、コミュニケーションをとれるようになっているので、現在は外国人住民向けの日本語教室の必要性を感じていない。
- 町内会等のお知らせチラシや貼り紙等は、現在は日本語のみだが、これを外国語に翻訳できるようになるといいと考えている。

地域 M

- 団地の 1/5 が外国人世帯である。
- 自治会の役員は、2 人で、日本人住民は高齢化しているので、日本人だけで町内会を仕切るのは難しくなっている。かつては外国人に組長を担ってもらったこともあるが、町内会費等の集金や管理が難しいため、現在は外国人にはやってもらっていない。
- 外国人は仕事で忙しいため、清掃等の地域活動に参加できない人もいるが、町内会を脱会してほしくないため、できるだけつながりを持って交流するようにしている。
- 居住者の入退去時には、管理会社から町内会に連絡が入るので、町内会でも入居者台帳を作り、入居者の状況を整理している。入居時には組長は訪問して規約等を説明しているが、外国人だどこまで日本語が通じているか、理解されているかがわからない。
- 住民へのチラシは、ポルトガル語にできるだけ翻訳している。大事なものは国際センターやコミサポにお任せで翻訳して作ってもらっているが、時間がかかるため、細かなチラシは自分で翻訳して作成している。最近、住民で翻訳に協力してくれる人が見つかった。
- 外国人の子ども放課後の居場所づくりと学習支援、子どもを通じて外国人とつながりをもつために、平成 29 年秋から集会所で日本語教室を開催している。
- きっかけは、ある事件があって、子どもを守る必要があった。また学校に行きたがらない外国人の子どももいたため、学校、民生児童委員と相談しながら、コミサポや国際センターの助成も活用しながら、日本語教室を立ち上げた。
- 団地の中では日本人の子どもと外国人の子どもが一緒に遊んでいる姿は見られない。外国人の子どもは外で遊んでいるが日本人の子どもは外で遊んでいない。通学も日本人と外国人で別々に行っているようだ。子ども同士でお互いに交流することは少ない。

- 団地内で様々な取組をしているが、地域の中での他の協力者、後継者は見つからない。続けていけるかわからない。

保育園

- 97 人中 25 人が外国籍の子どもである。(約 1/4)。国籍も様々である。
- 日本で生まれた子、母国で生まれた後に日本に来た子等それぞれいる。
- 職員と保護者の基本的なコミュニケーションは日本語である。職員には日常会話程度の英語ができる職員もいるが、多言語に対応できているわけではない。配布物は、ルビ付きの日本語、ひらがなの日本語に英語を併記したものを配布している。説明等は写真も交えて、実物を見せながら行うこともある。何とかなっている。
- 子どもたちは保育園の生活の中で日本語を覚えているし、上達が早い。日本語が話せず入ってくる子どももいる。保育園に入って語彙が増えているのは感じる。年単位で過ごせば、日常会話は問題がない。
- 子どもが小学校に上がれば学習言語としての日本語となり、苦労しているかもしれないが、実際はよくわからない。小学校と連携して、保育園から小学校にこれから行く子どものこと、保育園から行った子どものことを情報交換しているが、言葉の問題が課題として出てくることはあまりない。
- 保護者は「OK」と言いながら、話しの内容が伝わっているのかどうかかわからないこともある。わからない、通じていないことは「わからない」と教えてほしい。そうすれば伝える努力ができる。
- 近隣の市営住宅に、外国人の親子を見かける。就園前、就学前の子どもを対象にしたイベントを月に 1 回程度開催しているが、外国人の親子が来ることはない。直接園に相談に来る人もいない。情報が届いていないと感じている。
- 外国人がイベントの存在を知る、行くきっかけが必要だと思っている。

大学

- 大学としてこれまでに多文化共生や日本語教育には力を入れてきたし、日本語教育のニーズは高まると考えており、今後も力を入れていきたいと考えている。現時点では日本語教室との交流に取り組んでいきたい。
- 大学施設は授業後の 21 時までには使用することができる。大学内で実施することで活動に関わる学生の安全面での心配もなく、地域貢献として大学がやるべきであると感じている。
- 日本語教室の実施が大学のカリキュラムの一部やイメージアップにつながるようなものであれば、大学側としては取り組みやすい。
- 日本語教室を実施する場合には、必ずトラブルは必ず起こると思う。その際に相談できる窓口、アドバイスをもらえるところがあるとよい。
- 以前に、企業から大学で日本語教育の連携ができないかと相談があった。今後も可能性はあると思う。名古屋市には企業とのマッチングをしてもらいたい。
- 大学と企業、NPO、自治体とでコンソーシアムを作れるとよい。

- 大学が日本語教室を行うメリットや意義、他との違い等まだ上層部が十分にわかっていない。名古屋市のようない中立的な立場で助言や仲介をしてくれる人は必要である。

(3) 地域日本語教室意見交換会 意見まとめ

参加者：日本語教室運営者等 17 名 日 時：令和 2 年 1 月 15 日（水） 18:30～20:00 場 所：名古屋国際センター 第 3 研修室

[日本語教育内容について]

- 生活のための日本語が対象となっているが、仕事を探すための日本語や検定試験対策のための日本語を除外すべきではない。どちらも外国人の生活には必要である。
- 仕事で使う日本語について、就職前の日本語は生活のための日本語に近く、地域の日本語教室でも教えることが可能だが、就職後に使う仕事の日本語はプロの日本語教師でないと難しい。役割分担が必要になる。
- これまで日本の就職マナー等を教えてきたが、現在はニーズが少なくなり休止している。日本語能力試験対策の問い合わせが来ているので、場所や講師の人材が確保できたら試験対策の教室を開催したいと考えている。
- これまでは会話中心で生活に必要な日本語の教室を開催しているが、仕事で日本に来て検定試験を受験するために学習する人も増えている。これらの 2 つのニーズをどのように両立させるか、クラス運営をどのようにしていくかが悩みである。

[場所の確保について]

- 今後は地域密着の日本語教室が必要だと思う。そのためにもコミュニティセンターや学校の空き教室を活用できるように、名古屋市が間に入ってほしい。
- 会場の確保が課題である。会場確保に費用がかかり、助成金がなければ会場確保もできない。
- 様々な公共施設がある。空いているところを借りることはできないか。

[スタッフの確保について]

- 日本語教育に関するボランティアをしたい人に対する登録制度を実施したらどうか。日本語教室がボランティアを個別に募集するのではなく、登録者に問い合わせできるようになると、お互いにいいと思う。
- 「連携」ということでは、日本語教師養成講座を開講する学校と連携したらどうか。講座受講生が活躍できる場を提供できるといいのではないか。
- コンスタントに協力してもらえるスタッフの確保が難しい。
- 学生ボランティア、若者（20～30 歳代）の参加できる仕組みがあるとよい。

[学習者の確保について]

- 学習者を集めることに苦労している。学習者が集まらないと団体の運営も厳しくなる。広報や PR に対する支援をしてもらえるとありがたい。
- 学習者の募集手段について課題がある。また、来てもらえない、あるいは学習者が続かない状況もある。

[日本語教室運営について]

- 日本語教室をこれからもボランティアが担っていくものなのか疑問がある。職業としての日本語教師が活躍できる場が必要である。

- 一方で、地域で日本語教育を担う人がいない。資格がなくても、近所づきあいや気軽な交流での日本語教育も必要である。
- 名古屋市からの助成金を活用して、せめてボランティアの方に対して交通費を支給したい。
- 教室の賃料、教材費等の助成金を打ち切らないでほしい。日本語教室を継続させるために資金が必要である。

[連携について]

- 企業との連携は大事だが、企業といっても社会貢献意識の高い企業や低い企業、外国人住民の日本語教育を社内できちんとやっている企業や地域日本語教室にお任せの企業等、様々である。この辺りを見極めながら、名古屋市が間に入ってマッチングしてもらえるとありがたい。
- 社会福祉法人や生活協同組合等、地域貢献している法人と連携できないか。
- 人的支援、会場確保等、企業との連携ができるとよい。その仲介、コーディネートを行政等が行うとよい。
- 日本語学校、大学との連携ができるとよい。
- 日本語教育には、役割を明確にしながら、多様な主体が関われるとよい
- 日本語教室同士、日本語教室と関係機関のネットワークを作る取り組みをしてほしい。

[マッチングについて]

- 学習者、ボランティア、日本語教室、企業、大学、コミュニティセンター、学校等、日本語教育に関わる多様な人や主体をつなぐ、マッチングすることが大切である。
- 各教室の特徴と学習者のニーズをマッチングできるような場・人・機能があるとよい。

[情報提供について]

- 日本語学校のスペースを使って無料で子どもを対象に行っている日本語教室がある。現在はクチコミで子どもが集まっているが、他の日本語教室も含めた案内マップ等を作成し、学校を通じて配布してもらえるといい。
- 外国人への情報提供について、学びたい人に知ってもらうためにはどの様にすればよいのか。教室それぞれの特徴をPRして学習者のニーズにあった教室を選んでもらえるような情報提供ができるとよい。
- 情報提供は、名古屋市等の公的な機関が行うと信頼がえられやすい。
- 情報提供は、QRコード等を利用して、レストランや外国人が集まるようないたるところで行えばよい。
- 外国人への情報提供はクチコミが有効である。

[日本語教室開講場所について]

- 外国人の集住地域で日本語教室を開催してほしい。
- 名古屋市内各区に一つは日本語教室を開催してほしい。
- 現在日本語教室の空白地域での立ち上げには地域とのつながりをどのように作っていくのが課題である。公的な機関が仲介してつながりを作っていくことが必要である。
- 空白地域の立ち上げは、交通手段の確保をはじめとして、現在の日本語教室のボランティアでは協力が難しいかもしれない。

[日本語学習の方法について]

- 外国人の日本語学習に関するデータを集めることができれば、IT を活用した学習システムの開発は可能だと思う。このような学習システムを活用した、自宅や地域のコミュニケーションスペースで、自分で学習できる仕組みを推進してもよいのではないかな。

[子どもへの対応について]

- 主婦が日本語教室に子どもを連れてくるケースもある。また、中学校入学までのつなぎとして日本語教室に通うケースもある。
- 子どもを対象とした日本語教室の充実が必要である。不就学児については情報共有等が必要である。学校等の教育関係機関と連携して取り組んでいけるとよい。
- 初期日本語教室は行政が責任をもって、専門家を配置して取り組んでほしい。

[日本人住民への周知について]

- 外国人への情報提供だけでなく、やさしい日本語の周知等、市民の理解を図り、巻き込んでいくようなことも必要である。

[その他について]

- 日本語教育とは何を言うのか、多文化共生との違いは何か。日本語教師を目指す人でも混乱をしている。整理が必要である。

地域日本語教育に関する調査結果報告書

2020 年（令和 2 年）2 月

名古屋市

【編集】名古屋市 観光文化交流局 観光交流部 国際交流課

TEL : 052-972-3062

MAIL : a3061@kankobunkakoryu.city.nagoya.lg.jp